

# 2018(平成30)年度事業報告書



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

## <目 次>

I. 2018（平成30）年度事業計画への取り組み概要	1
II. 重点事業への取り組み	3
III. 長中期計画の行動計画より取り組んだ施策	6
IV. 広報戦略で今年度取り組んだ施策	14
V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組んだ施策	16
VI. 日本連盟100周年財政ビジョンで今年度取り組んだ施策	17
VII. 一般事業の取り組み	20
1. 主として団に関する事業	20
2. 主として県連盟・地区に関する事業	22
3. 主として日本連盟に関する事業	24
VIII. 各種主要会議の開催	31
IX. 参考（規程等改正一覧）	34
X. ボーイスカウトエンタープライズ事業報告	35

# I. 2018（平成30）年度事業計画への取り組み概要

## 1. 2018（平成30）年度事業スローガン

2018（平成30）年度は、日本連盟創立100周年を目指した長中期計画を踏まえ、前年度に引き続き、「活動的で自立したスカウトを育てよう！！」～日本連盟創立100周年を目指して～として、施策と事業に取り組んだ。

## 2. 重点施策

### (1) 財政再建及び組織改革に関する基本方針

2017（平成29）年5月の全国大会における奥島孝康理事長による非常事態宣言を受けて、スカウト運動の再興に全力を尽くすため、経営状況の透明化や組織の効率化を進めている。そのため、今後の財政再建や経営体制のあり方について、次の7つの「基本方針」に取り組んでいる。

- ① 登録料の値上げによって財政を立て直し、スカウト運動の質を向上させる
- ② 事業や業務の全面的な見直しを行い、予算の効率化を実現する
- ③ 収入の柱のひとつであるエンタープライズの経営を刷新し、安定的に収入を確保する
- ④ 保有金融資産の活用や企業寄付の獲得など新たな収入の道を確保する
- ⑤ 高萩スカウトフィールドの活用方法を具体的に示す
- ⑥ 理事会の執行体制の明確化など組織体制の見直しを行う
- ⑦ 日本連盟の経営情報の透明化を進め、関係者の声を聞く

### (2) 日本連盟創立100周年を目指した長中期計画の行動計画への取り組み（P. 6～13参照）

2022年の日本連盟創立100周年までに達成する長中期計画については、2018（平成30）年度は4年目を迎え、次の12項目の行動計画に沿った取り組みを行った。

- ① コミッショナーの充実、② 質の高い活動のための方策（セーフ・フロム・ハーム）、
- ③ 指導者養成、④ 地域コミュニティづくり、⑤ プログラムの見直し、⑥ 登録制度の見直し、
- ⑦ スカウティングにおける成人の役割、⑧ 情報伝達手段の刷新、⑨ 組織体制の検討、
- ⑩ 国家資格認定制度へのチャレンジ、⑪ 公益事業の取り組み、⑫ 野外活動施設の確保

### (3) 加盟員拡大・組織拡充に向けた取り組み（P. 14～19参照）

加盟員の拡大と組織拡充に取り組む、スカウト活動を活性化するために、日本連盟のみならず、県連盟・地区・団との連携により、次の3項目を重点的に取り組んだ。

- 加盟員獲得に向けた広報戦略の展開・スカウト活動のユニークさをアピール
- 団診断による団への支援と新団設立への取り組み
- 中途退団抑止のための支援

### (4) 安定した運営（P. 14～19参照）

公益財団法人として安定した運営を進めるために、次の4項目への取り組みを進めた。

- 企業・他団体・行政との連携促進
- 維持会員増強
- 財政ビジョンへの取り組みと加盟登録料改定
- 世界・地域との連携

### (5) 100周年記念事業の策定

日本連盟創立100周年まで4年となる記念事業の様々な計画の検討を進めた。

- 記念事業の策定と準備
- 第18回日本スカウトジャンボリー（2022年）の会場決定

## 3. 重点事業

次の3事業を重点事業として取り組んだ。（事業の内容、成果と評価は3ページから5ページを参照）

(1) 第17回日本スカウトジャンボリー

8月4日から10日まで石川県珠洲市で第17回日本スカウトジャンボリーを開催し、13,414人が参加した。今回は、これまでの派遣隊方式から自団の隊のままで参加できる方式に変更することで、すべてのスカウトが自団の指導者と一緒に参加できるようになり、普段のスカウト仲間との班編成で、ベンチャースカウトの支援を受けながら大会参加に向けた事前訓練に取り組み、大会参加を通じて長期キャンプを実践することで、参加する隊や班の育成を図る機会とした。

(2) 世界および国際事業への取り組み

第26回APRスカウト会議および第9回APRスカウトユースフォーラム（ともにフィリピン）に代表を派遣した。

2019年度に実施する第24回世界スカウトジャンボリー派遣については、派遣実行委員会による日本派遣団の編成を進め、同会場で開催の派遣団長会議に参加した。

(3) 各種行事の開催

8月23日から26日まで大和の森・高萩スカウトフィールドでRCJ野営大会（RCJ Re:Quest）を開催し、24県連盟から105人が参加した。

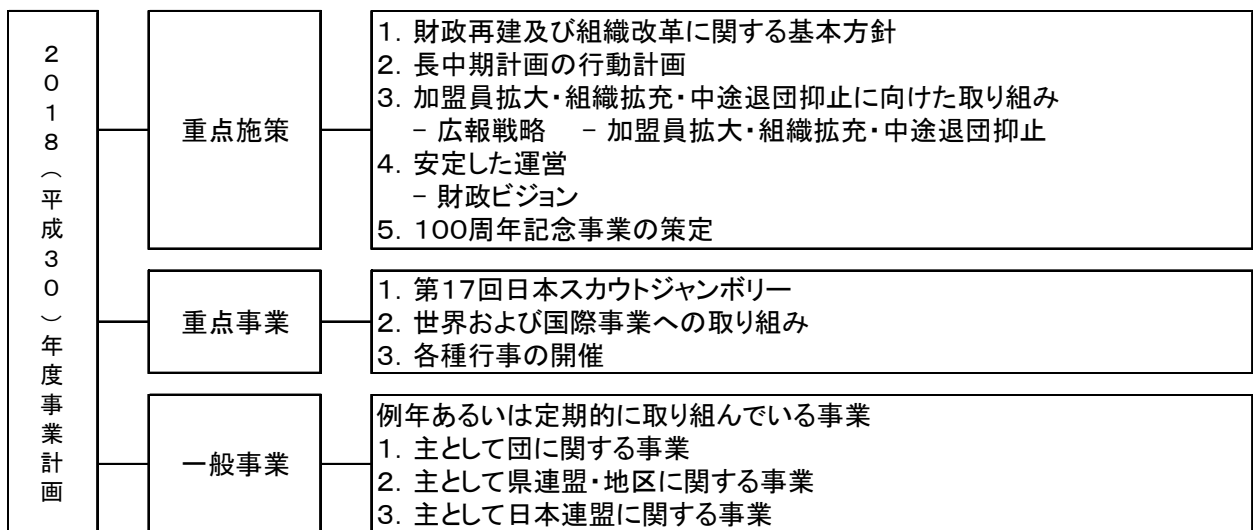
また、12月22日から24日まで、国立オリンピック記念青少年総合センターで第22回全国スカウトフォーラムを開催し、44県連盟から44人の代表スカウトが参加した。

4. 一般事業

例年あるいは定期的に取り組んでいる事業を中心に、主として団に関する事業、主として県連盟・地区に関する事業、主として日本連盟に関する事業に分類し、20ページから30ページに示すとおり取り組んだ。

事業体系

事業計画体系



## Ⅱ. 重点事業への取り組み

### 1. 第17回日本スカウトジャンボリー

冒険 ～能登のチカラ未来へ～ をテーマに2018（平成30）年夏季に石川県珠洲市で第17回日本スカウトジャンボリー（17NSJ）を開催した。大会については、各省庁等からの後援、支援のほか、多くの団体や企業等の協力を得て、大過なく成功裏に大会を終えることができた。

8月7日（火）のジャンボリー大集会には、皇太子殿下のご臨席を賜ったほか、大会期間中、ウィリアム・ハガティ駐日米国大使、宮川文部科学大臣政務官をはじめとして多数のご来賓にご来場いただき、スカウトたちを激励いただいた。

事業の内容：

会期： 8月4日（土）～10日（金） 6泊7日間  
 会場： 石川県珠洲市蛸島町「りふれっしゅ村鉢ヶ崎」およびその周辺  
 テーマ： 冒険 ～能登のチカラ未来へ～  
 後援： 文部科学省、防衛省、石川県、石川県教育委員会、珠洲市、珠洲市教育委員会  
 支援： 陸上自衛隊第10師団

参加人数：13,414人

参加区分	参加隊			大会運営 スタッフ	派遣団本部 スタッフ	人数計	備考
	スカウト	指導者	計				
ボーイスカウト	9,093人	1,934人	11,027人	1,610人	174人	12,811人	
ガールスカウト	29人	8人	37人	3人	1人	41人	5県連盟
外国参加者	435人	76人	511人	32人	19人	562人	12か国・地域※
計	9,557人	2,018人	11,575人	1,645人	194人	13,414人	

※参加国・地域 オーストラリア、台湾、香港、インド、インドネシア、韓国、マカオ、マレーシア、ネパール、フィリピン、イギリス、アメリカ

成果と評価：

- ・ジャンボリー参加について従来の派遣方式だけでなく、自団の隊のままの参加ができる方式を採用し（参加隊300区画中72区画、計253団・約2,500人）、奨励したことから各地域で隊や団でのジャンボリー参加の気運が高まった。
- ・大会運営については、これまでの13部署による業務を基本に、業務内容の統合やサブキャンプとの連携により9の部署に整理した。また、実行委員については、今後の日本連盟の運営を牽引していく世代を中心に編成された。
- ・サブキャンプの運営については、ブロックに依頼し展開した。ブロック内では、サブキャンプの運営を通じて人材交流が図られ、県連盟内の人材育成につながった。
- ・会場である珠洲市とその周辺の環境を生かしながら多種多様なプログラムを提供することができた。
- ・今後のジャンボリーに継承していくプログラムとして「ジャンボリーゲーム日本一」を制定した。このプログラムの成績優秀班については、閉会式前に表彰式を行い、成果を称えた。

### 2. 世界および国際事業への取り組み

#### (1) 第26回APRスカウト会議への出席

事業の内容：

10月15日から20日にフィリピン・マニラで開催された第26回APRスカウト会議に、日本代表団は水野正人副理事長・国際コミッショナーを首席代表に合計18人が出席した。この会議には、APR各国スカウト連盟の代表の他、合計33の国と地域および関係7組織から534人が出席した。

APRスカウト委員の選挙では、日本から嶋田 寛理事が当選し、第一副委員長に選任された。次回2021年に開催の第27回APRスカウト会議、第10回APRスカウトユースフォーラム、CLTは台湾で開催することになった。2025年の第33回APRスカウトジャンボリーは韓国セマンゲン（25WSJ会場）で開催することとなった。

成果と評価：

アジア太平洋地域における日本連盟の協力姿勢を示すとともに、各国との協力関係の強化を行った。APRスカウト委員の選挙では、嶋田 寛理事・国際委員長の当選、関係小委員会には4人が選任されたことで、今後さらなるAPRとの関係促進が期待される。

## (2) 第9回APRスカウトユースフォーラムへの参加

事業の内容：

10月9日から12日までフィリピン・タガタイで開催された第9回APRスカウトユースフォーラムへ日本から4人を派遣した。フォーラムでは、ユースエンゲージメント、インパクト、SDGs（持続可能な開発目標）に関するディスカッション、ヤング・アダルト・メンバーグループの選挙等が行われた。また、日本の参加者たちは、この後に開催された第26回APRスカウト会議へ引き続き出席をした。このユースフォーラムには27の国と地域から125人が参加した。

成果と評価：

このフォーラムへの参加により、日本のローバースカウトの意識が高まり、それぞれの活動の場で意思決定への参画が進むものと期待される。

## (3) 第24回世界スカウトジャンボリー派遣に向けた準備

事業の内容：

2019年に実施する第24回世界スカウトジャンボリー派遣に向け、水野副理事長を派遣実行委員長・派遣団長とする実行委員会により、1,235人を派遣員に内定し、日本派遣団の編成を行うとともに、派遣団本部会議、隊長会議、IST訓練を各2回実施した。また、3月から隊別に準備訓練を進めている。

成果と評価：

1,228人の日本派遣団を編成し、24WSJオフィスに参加登録を行った。派遣団本部、IST、参加隊のそれぞれが2019年7月の派遣団出発に向けて準備を進めている。

## 3. 各種行事の開催

### (1) RCJ野営大会 (RCJ Re:Quest)

事業の内容：

24県連盟から105人の青年世代のスカウトたちが集い、「Good Resolution」をテーマに冒険的な各種プログラム活動を通じて参加者相互に交流を深めることができた。また、今回は、地域との交流・奉仕活動にも取り組み、「茨城DAY」として期間中に茨城県内の小学生を招いて「自然を楽しむ体験活動」を提供した。参加した小学生、運営した参加者ともに楽しく有意義な時間を共有することができた。この茨城DAYについては、茨城県からの助成を受けて展開し、一定の評価を得ることができた。

期 間： 8月23日（木）～8月26日（日）3泊4日  
場 所： 本連盟・大和の森 高萩スカウトフィールド  
参加者： 24県連盟105人  
テーマ： good Resolution  
内 容： 23日 開会式、設営、ウェルカムナイト  
24日 半日プログラム（周辺サイクリング、SDGsフォーラム、ウッドクラフトなど）、ローバーカフェ  
25日 1日プログラム（堅破山登山、市街散策、長距離サイクリングなど）、茨城DAY（県内小学生対象自然体験活動事業）、ローバーナイト  
26日 撤営、閉会式

成果と評価：

- ・高萩スカウトフィールドでは、平成28年度に開催した「RCJ QUEST」に続く2回目の大規模野営大会となったが、前回より場内施設が充実していることもあったため、プログラムおよび生活の準備について、実行委員会（ローバースカウト年代）が主体的に協議して準備を進めることができた。
- ・参加者は、登山、サイクリング、クラフト、フォーラム、夜間プログラムなど、様々な活動に取り組み、新しい仲間とともに高萩の自然を満喫することができた。
- ・今後も青年世代にふさわしい、より冒険的なプログラムの充実と、大会の5泊以上の長期間化、国際化に向けた要望などが参加者から寄せられた。これについては、今後の大会企画の参考とするよう申し送ることとした。
- ・大会の目的の一つでもあった地域貢献活動は、茨城県の助成により「茨城DAY」として、日立、高萩、北茨城、常陸太田の4市から70人の小学生が参加し、場内ハイキング、火おこし・ロープワーク、キャンプファイアなどをローバースカウトと共に楽しみ、質の大会自然体験活動を提供するとともに、ボーイスカウト活動の楽しさを十分に伝えることができた。

## (2) 第22回全国スカウトフォーラム

今回のテーマは「私たちができる社会貢献とは」として、各地域、県連盟でも同一のテーマによりフォーラムを実施し、各参加者は地域の代表として2泊3日の全国フォーラムに臨んだ。フォーラムでは、「社会貢献」を改めて考えるワークショップを日本ファンドレイジング協会他4つのNPO団体の協力を得て展開した。これを受けて各参加者はそれぞれの地域でどのように「社会貢献活動」に取り組んでいくかを分科会、全体会で討議した。

最終日には、参加者全員でフォーラム宣言として話し合った内容をまとめ、フォーラム議長より、福嶋日本連盟コミッショナーへ提出し、それぞれの地域での展開を約束しあった。

事業の内容：

期 間： 12月22日（土）～24日（月・祝）  
会 場： 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター  
後 援： 独立行政法人国立青少年教育振興機構  
参加者： ボーイスカウト都道府県連盟代表44県連盟44人  
スタッフ 内田運営委員長、他運営委員9人  
榊原プログラム委員長、他委員3人  
見学指導者 8県連盟22人（最終日全体会のみ）

### 第22回全国スカウトフォーラム フォーラム宣言

ベンチャースカウト主導のスカウト活動を実現させよう！

- ・地域やスカウト同士のつながりを大切に、活性化させる。
- ・私たちがよりよい社会の実現を目指す。
- ・人々に私たちの活動を伝え、理解を得る。

成果と評価：

- ・「社会貢献」について改めて考える機会が提供できた。また、「フォーラム宣言」を持ち帰り、各地でのアフターフォーラムを開催する流れを示すことができたので、今後の地域での取り組みに期待したい。
- ・フォーラム運営については、参加者から選出された議長団により、参加者自身を取り仕切り、進めることができた。この運営には、ローバースカウトにより編成した運営委員による支援によるところが大きかった。
- ・ワークショップでは、「社会貢献を考える授業」を全国で展開している日本ファンドレイジング協会の協力で実施することができた。この内容については、ボーイスカウト版「社会貢献を考えるプログラム」としてのモデル化するために基礎を得た。
- ・また、今回のフォーラムでは、NPO、大学、企業、行政などが協働して行う全国的なキャンペーンである「寄付月間 2018」に登録することによって、社会貢献活動としてのボーイスカウトの取り組みを社会に紹介することができた。同様に後援をいただいた独立行政法人国立青少年教育振興機構についても、同機構が推進する社会貢献を通じた学びの活動（サービスマーケティング）について今後の連携などのヒントを得ることができた。

### Ⅲ. 長中期計画の行動計画より取り組んだ施策

#### 1. コミッショナーの充実

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
1-1	地区コミッショナーを中心として地域の各隊をバックアップしていく体制作り	コミッショナーハンドブック(地区編)を発行する。これに基づき、コミッショナーを中心に地区内の支援体制を構築し、全ての役員が団、隊の支援を強化する。	○	○	○	○	○			コミッショナー チーム
1-2	地区コミッショナー養成訓練を充実する	HB(地区編)を軸に研修実施。(日連→県連→地区)	○	○	継続	⇒	⇒	⇒		
1-3	ラウンドテーブルの研究及び充実化を図る	ラウンドテーブルのあり方の研究と定型外訓練の場として活用する。	○	○	○					
1-4	団担当コミッショナーの検証	H28～29 団担当コミッショナー制度を調査する。H30年度中に継続か廃止か判断する。	○	○	判断					
1-5	現任研修開始による支援任務の強化	再任時に研修を必ず実施。	○	○	○	○	○	○	○	
1-6	役務推進の自己貢献確認システムの導入(役務の進行状況を自己評価する)	自己研修課題を設定し、任期内に成果を上げることを課す。正コミッショナーに自己評価を報告する。	○	○	○	○	○			
1-7	ブロック幹事の任務強化	研修、情報等を伝達するとともに、ブロック内の活動活性化の中心となる。	○	○	○	○	○	○	○	
1-8	県連盟コミッショナーの日本連盟登録	業務の重要性を鑑み スカウト活動活性化の中心である。日連方針の推進者であることから今後検討する。	○	○	○	○	○	○		
1-9	コミッショナー制度についての研究諮問会議の設置	コミッショナーのあり方・制度を検討し答申する。	○	○	○					
1-10	各部門の質的向上	特にBS部門を中心としたもの。	○	○	○					

#### 1-1、1-2について

- 今年度は日本連盟コミッショナー方針として、「団診断C・D団への支援」を掲げ、各県連盟コミッショナーにより当該団の現状把握を行い、各団(隊)への支援策の検討、実施を展開してきた。このためのツールとして「コミッショナーハンドブック(地区コミッショナー編) 参考資料:登録審査自己診断表」を提供して、各県連盟での登録時における団審査の徹底を図った。このことにより地区コミッショナーを中心とした各隊へのバックアップ体制の基礎固めを行うことができた。次年度では、「地区コミッショナーへの支援」として総合的な支援を行っていく。
- コミッショナーの役務別の研修について、指導者養成委員会で検討を行い、次年度にコミッショナー任務別研修検討タスクチームを編成し、研修内容を具体的に見直していく。

#### 1-3について

- ラウンドテーブルは、1-1各隊への支援の一環として県連盟の対応に委ねるに留まった。この項目は次年度からは「地区コミッショナーへの支援」の中で、ラウンドテーブルの位置づけを明確にし、ガイドラインなどを示していく。

#### 1-4について

- 団担当コミッショナー制度の改廃については、前年度までにコミッショナー活動活性化検討タスクチームによる検討を行ってきたが、制度改廃などの判断にいたらなかった。このため、この項目は来年度以降も継続して行う。

#### 1-5、1-6について

- コミッショナーの各役務別の研修については、指導者養成委員会において「コミッショナー任務別研修検討タスクチーム」を設立し、来年度から本格的な検討を行う。

#### 1-7、1-8について

- 1-1を展開する中で、検討実施を行っていくこととし、次年度も継続して検討等を行っていく。

#### 1-9について

- 前年度にコミッショナー活動活性化検討タスクチームにより答申が提出されているので、この項目内容としては完了している。次年度以降は、この答申を活かした展開を検討、実施していく。

#### 1-10について

- 各隊のプログラム、運営が質的に向上できるよう、絶えずコミッショナーが支援できる体制を強化していくこととして、他の施策、とくに団審査やラウンドテーブルなどの機会をいかした取り組みを奨励してきた。次年度も引き続きこれを推進する。

#### 「コミッショナーの充実」全般の見直しについて

- すでに完了した施策、さらなる展開を期待する施策など整理をして、次年度に向けて見直し、新たな項目で取り組めるよう事業を計画した。



## 2. 質の高い活動のための方策(セーフ・フロム・ハーム)

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
2-1	ポリシー(考え方)の制定、ガイドライン制定、登録との運動	平成27年度に制定済。指導者の登録条件として継続している。	⇒	完了						S#H安全
2-2	問題対処法、情報収集、聴取、裁定などの実務的マニュアルの整備	問題解決のため、受付窓口を設定し、対処する組織整備を行う。	○	○	○	○				S#H安全 コミ 社・広報
2-3	普及、啓発のための研修、ツール開発。Eラーニングの活用	普及を図るためツールを作成し、提供する。	○	○	○	○	○	○		S#H安全
2-4	抑止力の検討と広報活動	危害を起こさぬ機運づくりと広報活動(PR動画発信・機関誌記事掲載等)による繰り返しの周知行動を起こす。	○	○	○	○	○	○	○	S#H安全 社・広報

### 2-1～2-4について

- 今年度も「登録前研修」の周知徹底と、相談窓口への各種の通報に対して県連盟を通じた問題解決に取り組んだ。また、様々なケースの評価から、県連盟や地区における実務的な対応方法に関するガイドラインを作成し、全県連盟へ配布した。
- 各県連盟ならびに地区においては、「セーフ・フロム・ハームセミナー運営ハンドブック」を活用した研修会を開催し、指導者が思いやりの心を育み、セーフ・フロム・ハームに関わる危害防止の意識を高めることに取り組んでいる。
- これらに加え、さらに充実した啓発活動を行うために、スカウティング誌の活用、ビーバースカウト、カブスカウトを対象とした啓発資料の作成などにも取り組み、スカウトや保護者から信頼される指導者の情操面の養成に努めた。来年度はスカウトへの啓発活動を本格化させる。
- 2-4については、「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会により、安全・思いやりの教育に関する啓発記事を機関誌で毎月展開し、WEB版にも掲出した。

### 緊急通達について

- セーフ・フロム・ハームの更なる推進を目指し、1月22日付で理事長名による緊急通達を都道府県連盟理事長・県連盟コミッショナー宛に発信し、綱紀粛正を改めて呼びかけるとともに相談窓口設置の周知を徹底した。
- 関連して、2月20日付で日本連盟コミッショナー通達「指導者バディールールについて」を都道府県連盟理事長・県連盟コミッショナー宛に発信し、ガイドラインに指導者バディールールを加え、更なる理解と実践を喚起した。

## 3. 指導者養成

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
3-1 3-2	1. ボイスカウト部門の質的向上を図る 2. ハイキングやキャンプなど野外での活動を中心とした本来のスカウト教育を推進する	訓練及びインサービスサポートによって、プログラムの充実を図り、他項目の達成と連携して達成する。全指導者のスカウト技能の修得とそれらを用いたプログラム企画力の向上。		○	○	○	○	○	○	指導者 養成
3-3	基礎訓練を全課程で共通化	全県またはブロックでのコースの実施。	○	○	○					指導者 養成
3-4	ウッドクラフトコースの開設(長期野営の体得。典型的、伝統的活動の修得。スカウティングのあり方、スカウト精神(スピリット)の体得。)	スカウト技能の修得及びプログラムへの展開。コース内容の研究・開発、実施。	○	○	内容 再 検 討	○	○	○	○	タスク チーム
3-5	指導者の更新研修の確立	更新コースの研究・開発。		○	○	○	○	○	○	ディレクター チーム
3-6	任務別研修の実施(必要な人に必要な訓練を行う)	コミッショナー、理事等に対する訓練開発を行う。実施についてはコミッショナーが担当する。		○	○	○	○			タスク チーム

### 3-1～3-3について

- 2017(平成29)年度から全国で実施となったウッドバッジ研修所「スカウトコース」「課程別研修」は、実施2年目になったこともあり、それぞれの県連盟において研究がなされた。特に、スカウトコースにおける班担当所員と隊スタッフとの役割を明確にすることにより、的確な支援ができるようになった。また、役務毎に手引きなどの所員を支援するツールを活用するなど、随所に工夫が見られた。
- 本年度のウッドバッジ研修所は、基本型での開設は、スカウトコース24コース、課程別研修BVS課程28回、CS課程36回、BS課程35回、VS課程26回となった。一括型での開設は、10コースとなった。団委員研修所は8コース、コミッショナー研修所は4コースの開設となった。どの研修においても隊指導者としての任務遂行への意識を高めさせ、研修終了後も自己研鑽が必要なことから、継続した支援が必要である。
- これにより、3-3は今年度で完了した。

### 3-4について

- 2016(平成28)年度と2017(平成29)年度に実施した評価を踏まえて、自然の中で生活する技能を用いてスカウティングの本質的な楽しさについて再確認し、プログラム開発能力を身につけることができるよう、コースの内容を見直した。規程を改正し、2019年度からは定型訓練として、隊指導者上級訓練課程の修了者を対象として開設する。

### 3-5について

- 研修受講の必須性(規程化)や更新期間・研修内容などを含め、引き続き検討を行っている。

### 3-6について

- 各役務の内容にしたがって、必要とされる研修を検討している。まずは、コミッショナーを対象とした研修について、タスクチームを編成して基本訓練及び上級訓練のあり方から見直すこととした。

#### 4. 地域コミュニティづくり

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
4-1	スカウト運動の組織拡充を図りながら、地域連携の強化	23WSJで連携した折鶴キャラバン、平成28年度の防災キャラバンを活かしながら地域の拠点づくりを行い、地域の青少年活動の中心的役割を示す。	○	○	○	○	○	○	○	団支援・組織拡充 社会連携・広報
4-2	未組織地域にスカウト団の発足、新しい団(隊)づくり、拠点づくり	登録200人以下の県連を積極的に支援し、3年以内で新規団を必ず発団させる。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	団支援・組織拡充
4-3	日本連盟による各自治体訪問や自治体首長、教育関係者との懇談会などの開催	全国の首長等訪問・懇談を積極的に展開し、起点にし、青少年育成、アウトドア教育、防災教育等、地域と一体化する活動の拠点づくりを提言、実行に導く。	○	○	○	○	○	○	○	役員事務局
4-4	防災活動の地域連携による取り組み	国、自治体、住民の協力を得るなどして、地域防災の取り組みを図る。	○	○	○					SFI+安全 防災 危機管理

##### 4-1について

- ・団支援・組織拡充委員会は、社会連携・広報委員会と連携し、防災キャラバンへのサポートを実施している。特に、モデル県連盟の防災キャラバンにおいては委員が現地において普及、募集活動の支援を進めている。

##### 4-2、4-3について

- ・団支援・組織拡充委員会では、組織拡充モデル県連盟への継続的支援、大学へのローバー隊設立に向けた情報収集、調整を進めている。また、スカウト数増加のための広報活動の支援を行っている。

##### 4-3について

- ・組織拡充モデル県連盟等において、自治体首長を訪ねて協力を要請している。

##### 4-4について

- ・作業チームを編成し、日本連盟、及び各県連盟・地区・団において「危機管理マニュアル」等を整備するためのツール開発や、地域や外部組織と連携して災害に対応できるよう検討している。この項目は、今年度までの予定であったが、完了していないため、次年度も継続する。

#### 5. プログラムの見直し

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
5-1	BS部門・VS部門一体化を含むプログラム見直し	両部門の進歩課程のシームレス化を図る。部門の一体化を推進する。	○	○	○					プログラム
5-2	現状の青少年の発達段階や学校学年制などを考慮した部門の見直し	研究者を交えて検討を行う。部門の設定。	○	○	移行					
5-3	進歩の見直しターゲットバッジ・マスターバッジの発展的廃止	進歩課程の改定による移行時期満了による廃止。		○	○	○	廃止			
5-4	企業と連携したバッジシステムの共同開発	社会で活用できる技能の修得のため、企業と連携し、章の共同開発をする。	○	○	○	○	⇒	⇒	⇒	
5-5	全ての部門での野外活動の拡大	教育効果の高い、アウトドア活動を展開する。特にBS部門以上は本来活動を行うため長期野営を進める方策を考え、実施する。	○	○	○	○	○	○	○	
5-6	教育部門を次の4部門への移行検討	BVS部門(遊育エンター部門)、CS部門、BS部門(現行BS+現行VS)、RS部門(研究・社会貢献部門)。現行部門の状況と活動のあり方を研究し、移行を検討する(特にBVS部門とRS部門)。	○	○	○					

##### 5-1について

- ・昨年度より公開している各種データの更新や指導者からの問い合わせの対応を進める他、隊運営のヒントとなるプログラム立案の手引きのデータでの公開を始め、BS・VS部門のそれぞれのスカウトハンドブックについて製作を開始した。
- ・ハンドブック・ベーシックは、タスクチームによる原稿が完成し、業者を交えた編集作業を開始した。ハンドブック・アドバンスは、原稿は3月末までの完成を目指し、タスクチームで作業を進めている。
- ・進級課程の移行に伴い、全国における進級調査アンケートを実施し、取り組み度合いについて確認する。
- ・実施年度について、2018(平成30)年度終了としていたが、2020年度まで継続とする。

##### 5-2について

- ・部門別のプログラムタスクチームを設置し、部門の見直しを含めたBVS・CS部門のプログラム実証について取り組み準備を進め、年末より3県連盟7こ団によるプログラム実証の研究を開始した。
- ・BS・VS部門の進級課程のシームレス化に伴うプログラム実証についても行うべく、取り組み内容の検討と全国6ブロックからの選出と一部県連盟からの選出を進める。

- ・実施年度について、2018（平成30）年度終了としていたが、次年度まで継続とする。
- ・プログラムの評価基準については、世界スカウト機構の定める評価基準も参考としながら、継続検討とする。
- ・部門に合わせたセーフ・フロム・ハームのプログラムへの導入については、「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会での検討を進める啓発資料を軸として、その展開方法を検討する。

#### 5-3について

- ・ターゲットバッジ・マスターバッジは今年度末をもって廃止し、この項目は完了したが、関連して次のことを継続して進めた。
- ・新旧を含めた技能章の取得状況（販売状況）を調査し、総体的な見直しについて検討した。進級課程の改定に合わせて、6つの新設と1つの見直しを行った。
- ・時代に沿った技能章を提供する仕組みについて、定期的な見直し方法についての明文化を継続検討とする。
- ・技能章を一覧で確認するための資料として、技能章考査の手引きの改定を進め、次年度早々に公開できるように改定作業を進める。

#### 5-4について

- ・新チャレンジ章について、今年度は3種類を提供した。年度始めの6月からの申込み受付で、配布が8月となったことで、年間計画への組み込みについては各団の協力により実施することができた。
- ・次年度については、今年度の3社に加え、複数社と協議を進めており、年度末時点では5種類を提供する予定とし、引き続き、社会連携・広報委員会との協力のうえ、取り組みを進める。
- ・国立公園におけるカーボン・オフセットキャンペーンとして、全国11会場で約350人の参加を得た。
- ・世界スカウト環境バッジの促進として、本キャンペーンを展開したが、目に見える形でのバッジ販売個数の増加は無く、継続した全国への取り組みの周知と実施依頼を進めていく。

#### 5-5について

- ・高萩スカウトフィールド活用タスクチームの設置を進め、2月に現地調査を行った。
- ・次年度に向けた取り組みとして、プログラム委員会所管の富士特別野営、指導者養成委員会所管のウッドクラフトコースの内容については、継続検討とする。

#### 5-6について

- ・この項目は今年度中の達成目標であったが、前述の部門の見直しを含めたプログラム実証を進めていることもあり、4部門への移行検討は次年度も継続する。5-2と共通するところが多く、事業と課題の整理を行う。

### 6. 登録制度の見直し

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
6-1	隊登録できる最低スカウト人数の検討	○	○	○	○	○			団支援・組織拡充プログラム コミッショナー 財務 社広
6-2	地域性を考慮した隊・団のあり方	○	○	○	○				
6-3	部門の検討に伴う各部門の登録の見直し(特にBVS登録、RS登録)	○	○	○	○				

#### 6-1について

- ・OB取り込みのためのシニアスカウト活動や新たな登録制度について検討を続けているものの、具体的な提案には至っていない。2019年度の提案を目指しさらに検討を進める。

#### 6-2について

- ・地域性を考慮した隊・団のあり方、加盟登録の在り方と仕組み、スカウトがなく休団した団の指導者をどう残せるか（スカウトクラブの在り方）等を関係委員会の検討課題としている。

#### 6-3について

- ・2019年4月からの加盟登録料の改定にあたり、前年度に指導者とスカウトの改定額の差を設けた。

### 7. スカウティングにおける成人の役割

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
7-1	多彩で多様な人材を確保するためのスカウティングにおける成人のライフサイクルの定着化	○	○	○					指導者養成 コミッショナー
7-2	インサービスサポートの推進(いつでも、だれでも、必要なトレーニングを受けられる)	○	○	○	○	○	○		コミッショナー 指導者養成
7-3	23WSJに参加・参画した人材を活用する。(人材の多様性を図る)	○	○	○	○				国際
7-4	幅広い人材の登用(特に若いユース等の県連・日連への登用)	○	○	○	○				プログラム コミッショナー 国際
7-5	ローバーの育成	○	○	○	○				

7-1について

- ・2018（平成30）年に世界スカウト機構から発表された Adults in Scouting World Policy（AIS）の中で示された成人のライフサイクルについて研究を進めており、評価についてまずはトレーナーから取り組みを始めるべく、トレーナー報告書の書式を改訂した。また、2018年度版AISの翻訳作業を進めている。

7-2について、

- ・隊指導者の日常の活動に対するトレーナーの個別支援が指導者の資質の向上に資する取り組みとして、適切な支援が出来るよう、今後も全国県連盟コミッショナー会議やトレーナー研究集会などにおいてインサービス・サポートの推進を奨励し、トレーナー研究集会では「成人指導者への支援」をテーマに、様々な視点からの支援方法を研究した

7-3について、

- ・23WSJから3年が経過したことを踏まえ、23WSJに参加・参画した人材から広げた活用を検討した。日韓スカウト交歓計画には、県連盟からの運営とホームステイの受入があった。
- ・この項目は、一定の成果から、次年度より「県連盟単位での国際交流推進」として2021年度まで継続する。

7-4について、

- ・RCJ運営委員会のメンバーが全国大会、スカウト教育推進会議等に出席・参席する等、日本連盟での参画の機会を設けている。また、企業への協力依頼を進める中で、加盟員以外に理解者を増やしている。
- ・この項目は、次年度から発展させ「青年の意思決定への参画促進」として2021年度まで継続する。

7-5について

ローバースカウト年代のネットワークを活かして派遣情報を共有し、参加者を募り、今年度は次のとおり派遣した。この項目は、「APR、WOSMとの関係強化による人材育成」に発展させ、2021年度まで継続する。

- ・第14回台湾ローバームート派遣  
台湾・台南 烏山頭 8月17日（金）～23日（木） 3人
- ・第9回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム派遣  
フィリピン・タガイタイ・バサイ 10月8日（月・祝）～10月21日（日） 4人
- ・香港ローバームート派遣  
香港・少年警訊永久活動中心暨青少年総合訓練營 12月23日（日）～27日（木） 9人
- ・カンダーシュテークインターナショナルローバーウィーク  
スイス・カンダーシュテーク国際スカウトセンター 12月29日～1月5日 1人
- ・サウジアラビア国際ピースキャンプ  
サウジアラビア・リヤド2月6日～2月14日 1人
- ・台湾ナショナルローバーカンファレンス  
台湾・高雄2月10日～2月15日 3人

8. 情報伝達手段の刷新

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
8-1	ICTを一層活用しコミュニケーションを促進し、意思決定や情報伝達に役立てる								事務局 ICT タスクチーム 社広
8-2	各県連盟向けポータルサイトによる情報発信	○	○	○	○	○			
8-3	グループウェアを利用した掲示板、ファイル共有、会議・事業スケジュールなどの共有								

8-1について

- ・隔週で開催している社会連携・広報委員会の定例会では毎回遠方の委員がネット回線を用いたテレビ会議方式で参加して労力軽減と旅費節減を実現している。また、その会議方式についてもいくつかのソフトウェアやWEBサービスを試用し、より利便性を高めるよう努めた。
- ・全指導者に配布している機関誌「スカウティング」のWEB版については、2017（平成29）年度末から毎号の掲載をスタートし、保護者層など本誌配布対象外関係者への情報普及に努めている。

8-2について

- ・2016・2017（平成28・29）年度に新規構築した新規スカウト獲得用のエントリーサイトの年度改修に加え、積年の情報増設が積もりに積もって見づらくなっていた加盟員向けWEBサイトを全面改修して2月新たに公開した。これにより、加盟員への情報提供の円滑化を実現できる。

8-3について

- ・グーグルドライブを用いた会議資料の共有のほか、タスク共有、会議中の資料同時閲覧、相互提供などより活用を進めている。



## 9. 組織体制の検討

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
9-1	長中期計画に基づく施策展開を行う上で、必要な組織的対応を行っていく	計画を円滑かつ確実に実行するため、必要な組織の変更を行うなど計画遂行に向けての対策をとる。また、計画の進行を監視するチームをつくる。	○	○	○	○	○	○	○	理事会 他
9-2	23WSJで構築してきた「企業・行政との関係」などを継続できる組織作り(「企業連携」「公益性」を意識した組織)	企業連携、公益性を強化できる組織を検討する。	○	○	○	○	○	○		事務局
9-3	日本連盟と県連盟の役割→それぞれにしかできない業務を強化	日連・県連の役割を見極め、各位の業務を強化する。	○	○	○					事務局
9-4	100周年基金の設立	基金を設立し、社会貢献に繋がる事業をめざす。	○	○	○					事務局

### 9-1 について

- 「財政再建及び組織改革の基本方針」に沿った組織体制の見直しを進めるとともに、政策等の進捗管理担当理事を置き、必要な組織的対応を進めている。

### 9-2 について

- 創立100周年に向けた企業等からの協力が得られるよう依頼まわりに着手している。18NSJ協賛やその他の協働事業等を得ながら、少しずつ動き始めている。また、社会連携・広報委員会と財務委員会が相互に委員の参席を行い、連携を深めている。

### 9-3 について

- 全国事務局長会議、県連盟代表者会議等の機会に意見交換を行っている。

### 9-4 について

- 創立100周年記念事業特別委員会の下に特別募金小委員会を設置した。今後、財務委員会、社会連携・広報委員会と連携して、基金設立を目指す

## 10. 国家資格認定制度へのチャレンジ

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
10-1	BSのノウハウを活かした野外活動指導資格制度	野外活動の指導者資格をBS独自で立ち上げ、社会で認知される資格に構築する。	○	○	○	○	○			事務局 他
10-2	BS教育を活かした各種研修を社会への提供	BSの研修形式を活かした企業の初任者研修等にチャレンジする。	○	○	○	○	○	○		事務局 他

### 10-1～2 について

- 研究の一環として、官民が創設し本連盟も指導者養成団体として登録している「自然体験活動指導者認定制度」における自然体験活動リーダー（NEALリーダー）および自然活動インストラクター（NEALインストラクター）の養成講座を一般対象に開設し、ボーイスカウト教育を活かした研修により資格の付与を行った。引き続き、ボーイスカウト独自の野外活動指導資格については、今後の検討課題としている。

### 10-2 について

- 前年2月の山口の無人島における野営研修事業を振り返り、日本連盟として受託する事業としての収益性や奉仕者の報酬を他の研修事業とどうバランスを取るかなどの課題を認識した。慎重に検討を進める中、都内での外資系企業の中堅社員研修のチームビルディングのパートについて一日プログラムとして協力する試みも行った。引き続き課題を整理して、今後の展開を検討する。なお、高萩スカウトフィールドの寄贈をいただいた大和ハウス工業より、高萩を会場とした野外研修の実施依頼があり、2019年度の実施が望まれている。

## 11. 公益事業の取り組み

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
11-1	運動内関係者にとどまらない表彰制度の検討と導入	組織外の方々に、優れた方を表彰する制度を立ち上げる。	○	○	○	⇒	⇒	⇒	⇒	事務局
11-2	善行の日常化の推進	善行が日常的な国民活動となるよう、計画、実行を進める。	○	○	○	○	○			コッパナー プログラム 社・広報 事務局
11-3	新しい公益事業の取り組み	ローバー年代を中心に新公益事業を考え、打ち出す。	○	○	○	○	○			事務局
11-4	現代青少年の研究	教育有識者会議を編成し、研究する。	○	○						プログラム 事務局

11-1について

- ・加盟員外への表彰を含めた維持会員年功章を今年度から開始した。また、創立100周年記念事業特別委員会と名誉会議が連携して、2020年の100周年当別表彰を検討する体制を整えた。

11-2について

- ・PR計画について「なろう。一人前に。」のキャッチフレーズを継続使用して各種キャンペーンを展開した。「人の役に立つ」ことがボーイスカウトのアイデンティティであることの普及を内外に発信した。

11-3について

- ・ローバースカウト年代を中心とした、地域社会や国際問題について取り組む機会を創出し、議論や実践の場が必要であることを鑑みて、持続可能な開発目標（SDGs）について検討を開始した。

11-4について

- ・現代の青少年に関する調査、分析等の研究については、ボーイスカウトにおける教育効果の測定を大学研究者等による研究ユニットに協力し、ボーイスカウト隊での1年間の体験が青少年にどのような影響を与えるかの調査を前年度から1年間かけて実施し、本年度は、回答を集計し、1年間の体験の影響についての分析を行った。
- ・教育有識者会議については、この集計分析などを用いて、改めて開催していく。

12. 野外活動施設の確保

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
12-1	活動的で冒険的な野外活動拠点となる施設の確保と充実(野営基準見直しによる「ボーイスカウト野外活動施設」ガイドラインづくり)	「野営基準」の見直しとともにBS用「施設ガイドライン」を検討する。		○	○	○	○			プログラム タスクチーム 社・広 事務局
12-2	日本連盟野営施設の充実(ガイドラインに沿った開発、整備し「これがBSキャンプだ」のモデル化をする)	高萩フィールドなどモデル野営地をつくる。		○	○	○				
12-3	ボーイスカウト優良野外活動施設認証基準を定めて認証し、県連盟野営場などへ拡大	(平成30年度以降の取り組み) 日連で優良基準を定め、適合野営地を優良認証する。			○	○	○	○		
12-4	プログラムパッケージの開発と提供	野外活動を重視した集会パッケージの開発		○	○	○	提供	⇒	⇒	
12-5	スカウトキャンプの体験、学校の課外授業、企業研修の提供	国家資格とチャレンジと併せ学校の課外授業の提供を検討する。	○	○	○	○	○	○		
12-6	ユーストレーニング(次世代のスタッフトレーニング)を検討	FHAのスタッフや高萩フィールドでのワークキャンプを通じてスタッフの育成やユースのためのトレーニングを検討する。	○	○	○	○	○	○	○	
12-7	施設を通じたパートナーシップの構築(自治体、企業、学校、教育機関、他団体、国(文部科学省、環境省、林野庁等))	諸施設を通じて関係機関とパートナーシップの構築を図る。	○	○	○					
12-8	ジャンボリー会場となりうる土地の確保	80万坪規模の常設ジャンボリー野営地を探す。	○	○	○	○	○	○	○	

12-1について

- ・活動的で冒険的な野外活動の拠点として、高萩スカウトフィールドの施設の充実を図っている。「野営基準」の見直しと「施設ガイドライン」は今後の検討課題としている。

12-2、12-4について

- ・高萩スカウトフィールド活用タスクチームによる検討を進め、各種行事を通じたプログラムパッケージについて、継続検討とする。

12-3について

- ・具体的な進展はないが、今後の検討課題としている。

12-5について

(1) 高萩スカウトフィールド活用タスクチームの設置

- ・プログラム委員会の下に高萩スカウトフィールドで実施可能な常設プログラムを開発し提供するため、そして利用を促進するために高萩スカウトフィールド活用タスクチーム(チーム長:中島清行プログラム副委員長)を設置し、検討を開始した。

(2) 茨城県委託事業の実施

- ・高萩スカウトフィールドにて下記の8事業を実施し、県内外の青少年等の交流の機会を設けるとともに、青少年教育施設職員、教員及び子ども会役員等を対象とした自然体験活動の指導者養成を行うことで、施設の活用促進並びに青少年の体験活動の充実を図った。(同様記載・一般事業 日-31)

- ① 7月14日(土)～16日(月) NEALリーダー養成講座
- ② 8月18日(土)～19日(日) 親子キャンプ

- |   |                  |                  |
|---|------------------|------------------|
| ③ | 8月25日(土)         | 茨城DAY            |
| ④ | 9月22日(土)～24日(月)  | NEALインストラクター養成講座 |
| ⑤ | 10月20日(土)～21日(日) | 第1回小学生キャンプ       |
| ⑥ | 10月27日(土)～28日(日) | 第2回小学生キャンプ       |
| ⑦ | 11月3日(土)～4日(日)   | 第3回小学生キャンプ       |
| ⑧ | 11月10日(土)        | 演習Ⅱ(救急法)         |

12-6について

- ・高萩スカウトフィールドにて実施した、茨城DAY(茨城県委託事業)、小学生キャンプ3回(茨城県委託事業)、自然とあそびデイキャンプ(緑の募金助成活動)において、スタッフトレーニングの後、参加した小学生のリーダーとして関わり、スキルとリーダーシップの醸成を図った

12-7について

- ・高萩スカウトフィールドでの自治体、企業などとの連携により、一定の成果を確認し、今年度でこの項目を終えた。これらの成果については、全国の各県連盟施設などで共有していく。

12-8について

- ・この項目は、2022年度までの継続課題であるが、2022年開催の18NSJが東京に決定したことから、今年度で区切りをつけ、当分の間に対応を行わない。

## IV. 広報戦略で今年度取り組んだ施策

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
IV-1	新広報戦略「10本の矢」の継続普及	改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す	○	○	○	○	○	○	○	社会連携・ 広報 団支援・ 組織拡充
IV-2	新広報戦略「10本の矢」を、改訂しながら継続普及し、引き続きより多くの新規入隊者の獲得を目指す。	ボーイスカウトの認知度を上げ、会員を増やし日本のスカウト運動を活性化させるために、次の「新広報戦略10本の矢」に組織を挙げて取り組む ① イメージを統一して徹底的に発信 (例: コカ・コーラB5自販機は全国50台の設置を目標に) ② きっかけになるPR動画を拡散 ③ PRムービーコンテストの実施 ④ 関心を持った人たちをリクルートサイトに呼び込む ⑤ 団情報のHP発信支援 ⑥ 多くの人にスカウティングを体験してもらう機会提供 ⑦ 入隊したビーバー・カブのお母さんの声を聞く ⑧ ローバーを社会に売り込む ⑨ かつての仲間を呼び戻す ⑩ 「PRドリームチーム」参加促進		○	○	○	○	○		

IV-1・IV-2については、2017・2018（平成28・29）年度に立ち上げた「新広報戦略10本の矢」による具体的な各種PR事業を継続して全面的に展開した。

### 「10本の矢」関連諸発信成果等：

#### <PR動画>

2019年3月集計

動画再生回数	YouTube	Facebook	合計
一人前かた（契約の関係で29年度末で終了） ※	152,904	31,413	184,317
保護者インタビュー	20,551	30,785	51,336
なろう。一人前に。夏休み編	538,749	67,765	606,514
教えてボーイスカウト・ビーバー隊カブ隊編 ※	17,404	33,593	50,997
ボーイスカウトが伝えたいこと	16,462	33,677	50,139
ボーイスカウト物語	19,552	23,893	43,445
野口聡一さんインタビュー	3,253	7,591	10,844
岡田武史さんインタビュー	4,197	8,579	12,776
ボーイスカウトのご案内・宮川大輔さん編	68,234	57,056	125,290
OUTDOOR Tips 明日試したくなる火起こし術	4,741	116,723	121,464
※印の2作品はPR会社の広告を用いた		総計	<b>1,257,122</b>

#### <日本連盟WEBサイト>

2018年12月末に外部向けエントリーサイトを、2019年2月下旬に加盟員向けサイトを、それぞれ全面改訂。来訪者増とし、各団への情報誘導力を強化した。（以下1～3月の改訂後とその前年同時期で比較）

来訪者数	2018年	72,193	→	2019年	90,475	(25%増)
新規の来訪者数	2018年	61,257	→	2019年	79,251	(29%増)
来訪者が見たページ数	2018年	359,632	→	2019年	608,137	(69%増)
来訪1回あたりの閲覧ページ数	2018年	2.56	→	2019年	3.69	(44%増)

なお来訪者が使っている機材は

スマホ 52.1%、PC 37.7%、タブレット 10.3%。

前年同期はスマホ 44.9%、PC 47.3%、タブレット 7.7%。スマホの率が顕著に増えている。

#### <SNSの展開>

各種SNSでも発信チャンネルを設けている。

Facebook	：フォロワー数	：14,825人
Youtube	：チャンネル登録数	：6,840人
Twitter	：フォロワー数	：4,954人
Instagram	：フォロワー数	：3,740人



## <主要メディア（新聞・ラジオ・テレビ・雑誌）とWEBメディアへの掲載例など>

2018（平成30）年春からのメディア掲載は日本連盟で掌握できたものだけで306件。

前年度は年度末で224件。82件約37%の伸び。なお当年度は日本ジャンボリー行敬関係報道が多く見られた。

## <PR計画関連講演、説明会ほか各種事業>

- 4月 スノーピーク本社訪問・山井社長との会談 協賛依頼  
産経新聞取材：皇太子殿下関連 福嶋理事  
コカ・コーラボトラーズジャパン：支援型自販機調印式  
100周年記念章配布スタート
- 5月 珠洲市「ふるさと納税」17NSJ コラボ・モンベルバックパック登場  
スカウトと社会をつなぐ場所⑨：モンベル辰野会長@大阪  
防災キャラバン・キックオフイベント@広島  
フジテレビ『ノンストップ』出演：ヒモの結び方特集  
スカウティング誌5月号：新チャレンジ章コラボレーションバッジ2種リリース  
全国大会PRブース出展・分科会開催にて全国に協力要請、各種PRグッズテスト販売  
『CAMP HACK』に記事掲載「全パパママ必見。ボーイスカウトで教わる10のこと」
- 6月 スカウトと社会をつなぐ場所⑩：東京工業大学野上教授  
PR計画講演会⑩静岡  
PR計画講演会⑩鹿児島  
PR計画講演会⑩広島  
雑誌『Lightning』8月号に記事掲載「冒険心を忘れない大人のためのボーイスカウト講座」
- 7月 全国のステーキガスト・グラッチェガーデンズに卓上ナプキン立てPRチラシ設置  
今年もやります「PRムービーコンテスト」募集開始
- 8月 多くの協賛・プログラム協力等を得て第17回日本スカウトジャンボリー（17NSJ）開催@石川・珠洲  
17NSJ会場より各種式典生中継動画配信  
フジテレビ『直撃！シンソウ坂上』飛行機事故ドラマにBS制服（類似品）登場
- 9月 ボーイスカウト×ユニクロ 難民支援衣料回収プロジェクト2018秋スタート  
防災キャラバンPRイベント：宮川大輔さんほか@千葉・幕張新都心  
PR計画講演会⑩東京連盟VSフォーラム  
雑誌『フィナム・アンプラグド』死ぬまでにやっておきたい習い事企画にBS掲載  
オリンピック・パラリンピック東京2020大会ボランティア申込BSコード配布開始
- 10月 新スカウト会館杉並区移転オープン  
おにぎりアクションPRイベント協力@千葉・幕張新都心  
「難民キャンプにメッセージを届けよう」緊急募集  
東京MX TV『ひるキュン』ゲスト出演「災害時などに役立つロープの使い方」  
BS版子ども食堂「つくたべカフェ」実験開催@東京・日本橋浜町  
テレビ東京『ソレダメ！』出演「今すぐ試したくなるスゴ技：ロープ結び」  
スノーピーク本社「雪峰祭」コラボレーション視察  
モンベルフレンドフェア@大阪にブース出展「バードコールづくり」  
週刊文春「遺贈」特集にボーイスカウト紹介記事掲載
- 11月 モンベルフレンドフェア@横浜にブース出展「バードコールづくり」  
スカウトショップ東京・新規開店  
映画『体操しようよ』公開（撮影協力・衣装協力。出演：千葉スカウトほか）  
企業研修（ドール社）に1日ポイントハイクプログラム協力  
おにぎりアクションPRイベント協力@神奈川・座間  
PR計画講演会⑩東京・全国組織拡充委員長会  
メジャーリーグベースボール開会セレモニーに神奈川VS奉仕  
全国育樹祭 皇太子殿下に東京連盟スカウト対面  
BS朝日『少年時代工房』ゲスト出演「イカダづくり」  
高萩スカウトフィールド桜植樹事業「しぜんとあそぼデイキャンプ2018 in 高萩SF」  
おにぎりアクションPRイベント協力@名古屋  
PR計画講演会⑩群馬
- 12月 スカウトライブラリー・東京杉並に新装開館  
エコプロにブース出展  
17NSJ災害支援募金を岡山倉敷市へ岡山のスカウトが伝達セレモニー  
日本連盟WEBサイト：新規メンバー募集リクルートサイトをリニューアルオープン
- 1月 NHK『鶴瓶の家族に乾杯』に那須野営場登場

スカウトと社会をつなぐ場所⑩：サイボウズ青野社長  
新春賀詞交歓会にて協賛企業等と交流

2月 天皇陛下在位30周年祝賀式典に東京連盟カブスカウト奉仕  
新チャレンジ章コラボレーションバッジ2019・5社とのコラボでリリース  
日本連盟WEBサイト・加盟員向けページを前面改訂新装オープン

3月 もったいない寄付まとめ整理ボランティアデー開催  
スカウトと社会をつなぐ場所⑪：パナソニック大坪特別顧問

## V. 加盟員拡大と中途退団抑止で今年度取り組んだ施策

			2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
			H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
V-1	各年度事業計画の重点施策としての加盟員拡大への取り組み	長中期計画に含まれている課題に加えて、団支援・組織拡充委員会による加盟員拡大の取り組み	○	○	○	○	○	○	○	団支援・組織拡充 社会連携・広報 中途退団抑止特別
V-2	都道府県連盟による100周年を目指した加盟登録人数目標設定	都道府県連盟による加盟登録人口見込みを毎年度分析し、必要な支援を行う		○	○	○	○	○	○	
V-3	各団の加盟登録人数に基づく団診断	都道府県連盟へ毎年度団診断のデータを提供し、団支援の具体的な対応を進める。		○	○	○	○	○	○	
V-4	中途退団抑止への取り組み	平成29年度のタスクチームによる検討を踏まえ、今年度からの特別委員会として具体的な取り組みを開始する			○	○	○	○	○	
V-5	長中期計画との相乗効果	平成28年度から取り組んでいる長中期計画の相乗効果を狙った具体的な中途退団抑止策の取り組み			○	○	○	○	○	

### V-1 について

- 前年度に引き続き、今年度の重点施策として取り組んだ。団支援・組織拡充委員会では、モデル県連盟を設定して、取り組みを進めている。

### V-2 について

- 前年度に実施した都道府県連盟の100周年を目指した加盟登録人数目標に対し、都道府県連盟の達成状況を分析している。この分析結果は、今後の支援に役立てる。

### V-3 について

- 昨年度に引き続き、各団の加盟登録人数に基づく団診断の結果を都道府県連盟へ提供し、団支援の対応を進めている。

### V-4 について

- 中途退団抑止特別委員会により、「次世代につなげるスカウト運動セミナー」を次の内容で実施した。
  - ①加盟員減少の現状と要因の分析、②中途退団を考える、③団の機能を考える、④団運営の課題を考える、⑤自団の評価をするといった内容で
 今年度は、3回のパイロットセミナー鳥取、岡山、広島で開催し、2019年度に各ブロックで開催する準備を進めた。

### V-5 について

- 長中期計画の各行動計画、広報戦略、加盟員拡大策、中途退団抑止策が具体的な動きとなったことから、相乗効果が表れるように連携した取り組みを進める。

## VI. 日本連盟100周年財政ビジョンで今年度取り組んだ施策

		2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	主担当
		H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	
VI-1	政策課題への取り組み			○	○	○	○	○	理事会 財務 事務局
VI-2	自助努力による経済効果策			○	○	○	○	○	
VI-3	加盟登録料の改定				○		○		
VI-4	今後の日本連盟の財政のあり方の検討			○	○	○	○	○	

日本連盟100周年財政ビジョンを進めることを含み、「財政再建及び組織改革に関する基本方針」の実施を理事会が承認したことから、基本方針の実施状況を以下に示す。

### 1. 登録料の値上げによって財政を立て直し、スカウト運動の質を向上させる（VI-3、VI-4）

登録料の値上げによって単年度の実質的な経常収支の赤字を解消するとともに、スカウト運動の質を向上し、その価値を社会に発信し、加盟員や支援者を増加させるために必要な施策を行う原資とする。値上げに伴う加盟員減少を最小限に抑えるため、個人登録制度や、維持会員の登録料免除など、登録制度の見直しを行う。

#### ① 登録料の値上げによって単年度の実質的な経常収支の赤字を解消する

- ・4月に関西6県連盟を訪問し周知と理解を依頼した。5月の全国大会時に都道府県連盟へ説明した。6月に関東ブロックで説明し理解を依頼した。運営系委員長会同発案による「2019年度スカウト初年度登録促進キャンペーン」を10月理事会で承認した。

#### ② スカウト運動の質を向上し、その価値を社会に発信し、加盟員や支援者を増加させるために必要な施策を行う原資とする

- ・4月に中途退団抑止特別委員会の設置し、具体的な取り組み開始した。「活動の質の向上」を実現し「スカウト運動の価値を再構築」することについては、社会連携・広報委員会による広報戦略を継続している。

#### ③ 将来的に公益財団法人にふさわしい登録制度と会員制度を検討し実行する

- ・5月に財務委員会、団支援・組織拡充委員会で検討開始した。

#### ④ 団登録のない指導者などの受け皿となる日本連盟への個人登録制度や、維持会員となった指導者の登録料免除などについて、2018年度に検討を行い、理事会に改革案を提案する

- ・今後、団支援・組織拡充委員会等で検討を行い、「登録制度検討会（仮称）」を設置する。
- ・公益法人としてのふさわしい会員・会費制度や、スカウト運動への賛同を得られやすい寄付制度を提案する。

### 2. 事業や業務の全面的な見直しを行い、予算の効率化を実現する（VI-1、VI-2）

加盟登録料の大幅な値上げをする以上、従来の経常経費の聖域なき全面的な見直しは不可欠である。執行理事各委員長の責任において所掌事業予算の全面的な見直しを行い、事業の遂行方法の見直しを含めた予算の効率化を検討する。ICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を一段と進める。事務局職員の「働き方改革」を推進する。

#### ① 経常経費の聖域なき全面的な見直しを実施する

- ・財政ビジョンの自助努力の実施を反映した予算を施行している。
- ・人件費の削減とアウトソーシング開始した。企業等からの協賛金を得るためのチーム編成と依頼を開始した。
- ・10月1日にスカウト会館と事務局を文京区本郷から杉並区下井草に移転した。
- ・本郷のスカウト会館を賃貸化したことによる財源が確保される。

#### ② 執行理事各委員長の責任において所掌事業予算の全面的な見直しを行い、事業の遂行方法の見直しを含めた予算の効率化を検討する

- ・4月から新任期委員会で協議開始を開始し、委員会ごとに予算区分する内部管理会計手法の整理し、各委員長による予算管理と中期的な見直し策の検討している。

- ・予算の執行を執行理事と事務局で十二分な共有を行うと共に、さらに効率性を向上させる。また、継続している事業の根本的な見直しを進める。
- ③ すでに進めているICT等を活用した業務改善を進め、さらなる経費削減を行う
    - ・前年度までに進めたICT化を継続し、問題点の確認と改善を進め、更なる経費削減に取り組んでいる。
  - ④ 現状の理事、監事、評議員の定数（スリム化）を含めて、理事の任務内容の拡充を再検討し、経営を担う、教育を担うなど役割責任分担を明確にするなどの改革を行う
    - ・理事の役割分担を進め、定数のスリム化を任期中に検討する。
    - ・2020年5月までの任期中に結論を導き、次任期に反映する。（評議員は2022年までの任期）
  - ⑤ 事務局職員の「働き方改革」を推進する。
    - ・事務局移転に伴い、フリーアドレス化を実施したことにより、働き方改革が進展した。
    - ・事業や業務の全面的な見直しと共に推進する。
3. 収入の柱のひとつであるBSエンタープライズの経営を刷新し、安定的に収入を確保する（VI-1、VI-2）  
BSエンタープライズの経営を透明化し、安定的な経営を行うことは、公益財団法人の財政にとって極めて重要である。安定的に収益がもたらされるように経営改革に早急に取り組む。日本連盟理事会による監督機能を抜本的に強化する。
- ① 収入の柱であるボーイスカウトエンタープライズの改革を行い、経営を透明化、安定収入を確保する
  - ② 支配法人である公益財団法人理事会による監督機能を抜本的に強化する
    - ・2018（平成30）年1月に理事会の下にBSエンタープライズ経営改革特別委員会を設置した。
    - ・特別委員会で検討を進め、「エンタープライズの経営実態と今後の再建策」を提言し5月理事会で承認した。
    - ・在庫など実態を把握し対応を検討した。
    - ・10月には、エンタープライズ事務局を日本連盟事務局に一体化し、業務委託契約を締結した。
    - ・1月末の決算で旧制服など不良在庫をすべて処理した。
    - ・BSエンタープライズ理事・監事・行議員を全面改選し、2月からの新年度を迎えた。
    - ・特別委員会の下に「スカウト用品特別委員会」を設置し、編成を進めている。
4. 保有金融資産の活用や企業寄付の獲得など新たな収入の道を確保する（VI-1、VI-2）  
理事会、評議員会で承認を得ている保有国債の売却資金による新事務所確保及び、取得時に比べ財産価値が大幅に高まっている本郷スカウト会館の賃貸化による賃貸収入の確保策を早急に実現する。企業などからの維持会費や寄付、協賛金の拡大など具体的な増収策を検討・実施する
- ① 本郷スカウト会館の賃貸化による賃貸収入の確保
    - ・10月の事務局移転後に賃貸のための改装工事を行った
    - ・1月から賃貸募集を開始した。
  - ② 保有国債の不動産化
    - ・2018（平成30年）3月に下井草物件を契約した。
    - ・5月に改装工事を開始した。
    - ・10月までに事務局は下井草に移転し、業務を開始した。
  - ③ 日本連盟役員、社会連携広報委員会と財務委員会を中心に、具体的な寄付、協賛、維持会費の増収を実施する（ドリームチームの設置）
    - ・5月に財務委員会および社会連携・広報委員会が連携して資金造成チーム設置準備を開始した。
  - ④ 委託費や補助金について獲得実行部隊を作り、組織的に取り組む
    - ・財務委員会、社会連携・広報委員会、ドリームチーム、事務局が連携し、今後可能な委託事業、補助事業の獲得を進めている。
    - ・現在の他財団や行政からの補助金獲得を継続しつつ、高い実績のある団体の研究を行い、指南を受けつつ新規実績をあげるよう推進する。
  - ⑤ 公益財団法人の公益寄付制度に合致する会員資格を活用し、支援者などを拡大する
    - ・公益寄付制度による支援者の拡大を進める準備をしている。
5. 高萩スカウトフィールドの活用方法を具体的に示す（VI-2）  
高萩スカウトフィールドの今後の活用方法について早急に具体化するため、「ワーキンググループ」を設置、常設プログラムの提供などを検討、実験運用などを行う。
- ① 高萩スカウトフィールドの運営に関する方針を検討し、グランドデザインをするためのワーキンググループ設置する（ソフトウェアチームも抱合）
    - ・プログラム委員会の下に活用タスクチームを設置し、検討を開始した。
    - ・理事会の下に管理特別委員会を設置し、運営面の検討を開始した。

- ② 常設プログラムによる集客などを2018年度中に決定し実験運用を行う
    - ・プログラム委員会および活用タスクチームで検討を開始している。
    - ・2019年度からプログラム提供を本格的に開始する。
6. 理事会の執行体制の明確化など組織体制の見直しを行う
- 執行理事の権限と責任を明確化し、執行理事の主導の下に経営改革を行う。コミッショナーをトップとする教育部門の執行体制と、経営を担う運営部門の執行体制を明確化するなど執行体制の見直しを行う。非執行理事の役割の明確化や、評議員の選定方法や定数などを含めた見直しを行う。
- ① 執行理事の権限と責任を明確化し、執行理事の主導の下に経営改革を行う
    - ・5月からの新任期の執行理事により、予算管理を含めて具体化している。
  - ② コミッショナーをトップとする教育部門の執行体制と、経営を担う運営部門の執行体制を明確化するなど執行体制の見直しを行う
    - ・運営系担当常務理事及び運営系執行理事（財務委員長、団支援・組織拡充委員長、社会連携・広報委員長）による推進が具体化している。
    - ・7月臨時理事会で教育規定を改正し、教育推進会議メンバーから運営系委員長（団支援・組織拡充と社会連携・広報）を外し、信仰奨励委員長を追加した。
  - ③ 非執行理事の役割の明確化や、評議員の選定方法や定数などを含めた見直しを行う
    - ・非執行理事への役割分担では、創立100周年記念事業特別委員会の下の小委員会委員長等に就任している。
7. 日本連盟の経営情報の透明化を進め、関係者の声を聞く
- できる限り情報の早期公開に努め、全国の都道府県連盟など関係者の意見を反映させた上で、スピード感を持って経営改革に取り組んでいく
- ① 情報の早期公開に努める
    - ・5月からの新任期理事会・評議員会より更なる情報公開を進めている。
    - ・社会連携・広報委員会を中心に、情報公開のあり方、情報伝達ルートの見直しなどを検討し、改革案提示の準備を進めている。
  - ② 全国の都道府県連盟など関係者の意見を反映させた上で、スピード感を持って経営改革に取り組んでいく
    - ・関係者の意見を聴取し反映する方法を検討している。
    - ・今後の全国大会等において、全国の団委員長から意見を聞く場を設けることを検討している。

## Ⅶ. 一般事業の取り組み

### 1. 主として団に関する事業（団－1～13）

*重点施策・重点事業に含まれるものを除く		所管組織				
		日	県	地	団	
主として団に関する事業	1	スカウトの信仰を奨励する。(信仰奨励委員会・宗教関係者の会)	◎	◎	◎	◎
	2	礼儀(挨拶)と規律(基本動作とスマートネス)を基準に基づいて確実に指導する。(日コミ・県コミ・地区コミ)	○	◎	◎	◎
	3	スカウトの「日日の善行」を班・隊活動のほか日常生活の中でも促進する。(隊)				◎
	4	班・隊・団・地区・県連としての地域奉仕活動のほか、地域団体とも協力して行う。		○	○	○
	5	震災等の復興支援活動を展開する。(団、地区、県連、日連)	○	○	○	○
	6	「スカウトの日」には各種奉仕を中心とした活動を積極的に展開する。(プ・県連)	○	○	○	○
	7	スカウトゲーム集、スカウトソング集を活用する。(プ)	○	◎	◎	◎
	8	第61回JOTA、第21回JOTIへの参加を推進する。(プ)	○	○		○
	9	英国エディンバラ公国際アワード(プログラム)の推進を図る。(プ)	◎	○	○	◎
	10	BVS・CS部門からの上進率を高める施策を検討し(プ、県コミ)、隊、団がこれを活用する。	◎	○	○	◎
	11	隊長と保護者のコミュニケーションを一層密にする。(スカウトの成長などについて)				○
	12	団・隊はスカウト・保護者に対して、「スカウト活動に関するアンケート」を活用する。(団・組)	○	○	○	◎
	13	各団で説明会の普及を図る。県連盟・地区は団が有効活用できるよう支援を行う。(団、地区、県連)		○	○	◎

団－1：信仰奨励委員会で、宗教章授与基準を設置していない教宗派でも取得できる仕組み等、信仰奨励、普及のための検討を行った。

- ・各教宗派からの申請に基づき、次のとおり授与基準の新設・変更について手続きを行った。  
新設：聖書キリスト教会 変更：日本カトリック教会、世界救世教
- ・委員が分担してスカウティング誌に信仰奨励を図る記事を執筆、掲載した。
- ・5月の全国大会時に「宗教関係者の会」年次総会（出席会員10人）を行った。現在の会員数50人（前年度末42人）。
- ・本年度は421人が宗教章を取得した（前年度取得者345人）。
- ・各教宗派、協議会の協力を得て、17NSJの信仰奨励プログラムを実施した。

団－2：定型訓練の参考資料として「基本動作・礼式の基準」を各地における基本動作の指導に活用している。

団－3：公共のマナーの大切さについては、「日本連盟コミッショナー通達（夏季の諸活動・冬季の諸活動）」により、各県連盟を通じて周知している。

団－4：「スカウトの日」の実施を通じて、地域奉仕活動を地域団体や地域行政などとも協力して進めている。通年を通じた取り組みなど、今後も継続して促進を進める必要がある。

団－5：復興支援活動に関連して、災害時の募金活動等が行われた。特に7月の中国地方の豪雨災害に関連しては、17NSJでの参加者募金呼びかけ、大会ソングCDのチャリティ販売なども行い、全国的な支援を展開した。

団－6：「スカウトの日」は9月17日（第3月曜日敬老の日）に一般財団法人セブン－イレブン記念財団の協賛、文部科学省・環境省・厚生労働省の後援をいただき、テーマ“地球大好き！ I Love the Earth.”のもと、「日日の善行」の一環として全国の加盟団・隊のスカウト・指導者が、奉仕活動としてさまざまな社会貢献活動を展開した。地域住民の方と取組み、ボーイスカウト活動を広く周知するため、申し込みのあった団・隊には、のぼりと、コミュニケーションロゴを入れた「絆創膏」と参加記念バッジを参加人数に応じて配付した。

参加報告集計結果は、参加団554団、参加者17,965人であった。

（前年度実績539団、19,278人）

2016（平成28）年度から事前申し込みと実施報告をインターネットのみの受付としたため、実際に活動を実施したもののインターネットの入力に対応できない団があり、報告数が減少したと考えられる。

この取り組みを広く一般に周知するため、日本最大級の環境展示会「エコプロ2018」にブース出展し発信した。環境保全・環境美化活動以外にも、地域の奉仕活動が展開されるよう検討している。

団－7：スカウトゲーム集、スカウトソング集を活用については、隊、団活動の更なる推進の一環として、隊指導者の実践に役立つツールとして「スカウトゲーム集」を2014（平成26）年度に発行し、これが活用され、より楽しい魅力的な隊活動となるようゲーム集の周知を図っている。このゲーム集は、これまでに3刷を発行し、多くの指導者に活用（年間頒布数567冊・前年度694冊・通算で約7千部）されている。

スカウトソング集については、スカウトソング特別委員会にて過年度からの修正内容を確認の上、ボーイスカウト歌集を発行した。

団－8：第61回JOTA、第22回JOTIは、次のとおり実施された。

- ・世界スカウト機構が主催する公式国際行事として“Life on Land - United Nations Sustainable Development Goal 15（持続可能な開発目標 15：陸の豊かさを守ろう）”のテーマのもと、世界中のスカウト関係者が、無線交信やインターネット接続での情報交換により、お互いを理解し知識と友情を深めた。
- ・開催日時：10月19日（金）00：00～21日（日）24：00 72時間
- ・日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ協力のもと、栃木・那須野営場に無線機等を設置して、2泊3日の期間7人で運用し、約300局との交信、海外はイギリスとアブダビと交信した。また、21日には矢板市八方ヶ原高原にも移動局を置いた。
- ・国内の運用・参加について、23県連盟54人から報告があり、延べ1,201人が参加・見学した（前年度は、64件、延べ1,114人）。
- ・参加の内訳としては、JOTA参加が20件、JOTI参加が17件、両方への参加が17件、参加スカウト692人、参加指導者・支援者364人、見学者145人であった。
- ・昨年度から運用件数は減少したが、地区や団でJOTIを中心に大々的に実施するところが増え、参加者・見学者ともに増加した。

団－9：英国エディンバラ公国際アワード（プログラム）は、140以上の国と地域で展開され、800万人以上の青少年が参加し世界的にも認められている本プログラムをローバースカウトおよび同年代の指導者に提供を引き続き実施し、プログラムの推進や推奨を行っている。2018（平成30）年度は、日本事務局の閉鎖に伴い、すでに参加している人への対応など限定的に活動を実施した。2018（平成30）年度は新たに3人（ゴールド1人、シルバー2人）のスカウトが修了し、2013（平成25）年度の開始以来、通算して9人の修了者となった。

団－10：カブスカウト部門の一部プログラム改正と上進時期の変更について、県連盟コミッショナーを通じて各団・隊の移行完了について周知を図った。

団－11、12、13：

- ・アンケートは、より効果的に進められるよう内容の見直しを進め、今年度リニューアルし、3月13日にホームページに掲載した。
- ・説明会等でのヒントとなるよう「報告書－母親の本音から探る新規加盟員獲得と中途退団防止の14のポイント」を昨年度事業の成果として、5月に都道府県連盟事務局（理事長、県連盟コミッショナー、組織拡充担当委員長宛）に配信した。

## 2. 主として県連盟・地区に関する事業（県－1～10）

	一般事業	所管組織				
		日	県	地	団	
主として 県連盟・ 地区事業	1	各種訓練機関(BS講習会、WB研修所、WB実修所、団委員実修所など)を実施する。(指)	◎	◎	○	
	2	「スキルトレーニング」への積極的な取り組みを促進し、上級訓練への参加者数を増加させる。(指)		◎	○	○
	3	隊指導者の当該隊指導者上級訓練課程への参加を促進する。(指、コミ)		◎	○	○
	4	各種訓練やインサービス・サポートを通じて指導者の資質の向上を図る(指・県コミ・地区)	◎	◎		
	5	特に若手指導者を表彰できるようにする。(日コミ・県コミ)	◎	◎		
	6	団・地区・県連盟に「組織拡充担当」を置き各組織にて会員拡充を推進する。(団・組)			◎	○
	7	組織間の訪問を推進する。日連→県連、県連→地区、地区→団	◎	◎	◎	
	8	アウトドアチャレンジ事業を県連盟独自事業として展開する。		○		
	9	安全促進フォーラムを開催する。(SfH・安)	○	◎		
	10	「思いやりの心を育む教育」に関する研修を実施する。(SfH・安)		◎	○	

県－1：新訓練体系に基づく各種訓練を全国各地で実施した。

### ボーイスカウト講習会

- ・全国で200回以上開設し、ボーイスカウト運動の普及に努めた。

### ウッドバッジ研修所「スカウトコース」(34コース)

- ・参加者の研修効果が上がるよう効果的な支援を行い、セッションの運営に関しては、コースの開設地域に応じた工夫がなされ、参加者の理解を深める努力が行われた。

### ウッドバッジ研修所「課程別研修」(のべ125回)

- ・青少年の年代別の特性や各部門の隊運営や進歩制度の特徴、プログラムの立案について学ぶ内容となっている。
- ・課程別研修を履修することで「隊指導者基礎訓練課程」の修了となり、上級訓練へとモチベーションを維持し、さらに自己研鑽に励むことが期待される。

### ウッドバッジ実修所(6コース)

- ・活発なプログラムを展開するために、隊指導者に活動的なプログラム体験の機会を増やすことをねらいの一つとして、隊指導者上級訓練の内容を見直した。
- ・スカウトの進級課程の改定内容を踏まえて、BS・VS課程に一日ハイキングのセッションを追加し、2019年度から日程を4泊5日に変更する。

### 団委員研修所(9コース)

- ・団委員の実務を中心とした研修内容であることから、団の組織と運営の概要について理解し、団委員会、団会議の機能と連携や各隊活動への支援、団委員会の業務について理解する内容となっている。セッションの運営については、参加者の状況や地域差により所長の適切な対応が行われている。

### 団委員実修所(4コース)

- ・団の組織および団委員(長)の任務について深く理解し、団委員(長)として正常かつ発展的に団を運営していくための実務を理解し、自団の問題解決や将来に向かっての施策を推進する能力を高める内容となっている。

### コミッショナー研修所(4コース)

- ・コミッショナーとして、隊・団の現状を把握し、支援を行うことの重要性の理解と、業務の流れ、コミッショナーに求められる知識、技能、態度などに関する理解を深めることにポイントを置いた研修内容となっている。セッションの展開方法については参加者の状況や、地域差により所長の指導に任せている。

県－2：スキルトレーニングの履修認定作業を広く実施するために、「スキルアップアドバイザー(スキルトレーニング履修認定者)」を委嘱し、日本連盟トレーナーを必要数確保できない県連盟の指導者がスキルトレーニングに取り組み易くしている。

県－3：基本訓練から上級訓練へスムーズに参加できる仕組みを検討している。県連盟ディレクター研究会において上級訓練への参加状況を示し、各県における上級訓練課程への参加促進を行った。また、全国県連盟コミッショナー会議でも広く意見を求め、挙げた意見を踏まえて今後の改定作業を進めていく。

県－4：全国の指導者の資質向上のため、隊・団への継続的な支援を行った。各県連盟において、インサービス・サポート(指導者の任務中の支援)の充実に努めることにより、指導者一人ひとりが自己研鑽によって知



識・技能・心構えを高め、日常の活動の充実や団の発展に寄与できるよう、継続して支援を行う。

県－５：ボーイスカウト振興国会議員連盟表彰で若手指導者を表彰できるようにしている。

県－６：「組織拡充担当」を団・地区・県連盟に置き組織拡充を推進することについては、団支援・組織拡充委員会で全国組織拡充担当委員長会合を１１月１０日・１１日に開催し、更なる推進を依頼した。

県－７：団支援・組織拡充委員会から県連盟へは、団支援・組織拡充委員会において、組織拡充モデル県連盟として、秋田県連盟、岡山連盟、高知県連盟、大分県連盟を訪問した。また、この他に千葉県連盟（地区を含め計３回）、愛知連盟、奈良県連盟、福岡県連盟を訪問し、団支援・組織拡充についての講演等を行った。県連盟から地区、地区から団への訪問は、各県連盟で推進している。

社会連携・広報委員会においてもPR促進面の呼びかけのため、群馬県連盟、東京連盟、静岡県連盟、広島県連盟、鹿児島県連盟を訪問し、講演を行った。また、企業イベントへの協力等では、千葉県連盟、神奈川連盟、東京連盟、愛知連盟、大阪連盟、広島県連盟を訪問し各県連盟と連携して事業を推進した。

県－８：２０１４（平成２６）年度より事業を自然体験推進協議会（CONE）に事務局運営を移管し、実施する都道府県連盟とODC事務局とで事業を進めている。２０１８（平成３０）年度も日本連盟として事業に対する直接的な関わりは行わず実施した。連盟組織内へはCONEに移管したODC事務局が運営を働きかけている。日本連盟としては事業権を保持しているため、今後の本事業の方向性について引き続き検討を行っている。

県－９：安全促進（基幹）フォーラムは、ボーイスカウト活動における安全の促進により、事故発生件数の低減化を図ること、日本連盟が構築した「安全確保と補償のシステムループ」の理解を広めること、蓄積された事故実績データの有効活用を図ることを目的に開催している。更に、基幹フォーラムに参加した指導者による安全促進拡大フォーラムを開催している。

#### ２０１８（平成３０）年度安全促進（基幹）フォーラム：

２会場で開催、１７５人が参加

① 東京会場 ９月１６日（日）ボーイスカウト会館 参加者２９人

② 岐阜会場 ９月 ２９日（日）岐阜・ハートフルスクエアG 参加者６１人

２００９年（平成２１）年度から始まったこのフォーラムは、２０１８（平成３０）年度末までに、４４回（参加４３県連盟）で開催され、延べ１，９２１人が参加している

#### ２０１８（平成３０）年度安全促進拡大フォーラム：

１会場で開催、３３人が参加

① 東京会場 ３月１０日（日）府中教育センター 参加者３３人

２０１０年（平成２２）年度から始まった拡大フォーラムは、２０１８（平成３０）年度末までに、４１回（延べ１２県連盟）で開催され、１，０８３人が参加している

県－１０：セーフ・フロム・ハームガイドブックを活用したセミナーの県連盟・地区における開催を推奨し、「指導者としての取り組み」「問題の発生と対応」などについて参加者が意見交換することにより、これまでの言動を見直し、質の高い活動へ取り組むよう指導者の意識の変革を図っている。

### 3. 主として日本連盟に関する事業（日－1～38）

	一般事業	所管組織			
		日	県	地	団
1	富士スカウトを顕彰する。(代表表敬)(プ)	◎	○	○	○
2	全国ローバースカウト会議(RCJ)を通じてローバースカウト活動の活性化を図る。(プ)	◎	○	○	○
3	「青少年の意思決定への参画」をより推進するため、全国スカウトフォーラムを開催する。(プ)	◎	○	○	○
4	全国ローバースカウト会議の活動を活性化し、全国事業を開催する。(プ・日コミ)	○			
5	英国エディンバラ国際アワードリーダー研修会を開催する。(プ)	◎			○
6	海外派遣事業を実施する。(国)	◎	○	○	○
7	海外スカウト受入事業を推進する。(国)	◎	○	○	○
8	国際活動サービスチームの活動を推進する。(外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等)(国)	○			
9	イン・サービス・サポート(指導者への任務中の支援)充実のため、各種資料を作成する。(指)	○			
10	日本連盟トレーニングチームの充実を図る。(指)	○			
11	平成30年度全国大会を開催し、指導者としての研鑽を積む。(岐阜県岐阜市)	◎	○	○	○
12	組織拡充モデル県連盟を数県連指定して日本連盟と一体となって組織拡充を推進する。(団・組)	◎	○	○	○
13	全国組織拡充担当委員長会合を開催する。(団・組)	◎	○		
14	組織拡充顕彰を実施する。(団・組)	○			
15	中途退団数の実人数を把握する。(事)	○			
16	全国BS写真コンテストを実施する。(社・広)	◎			○
17	新刊書籍・資料の検討を行い発行する。(プ、指、社・広)	○			
18	WOSM・外国連盟資料を翻訳し出版する。(プ、指、社・広)	○			
19	絶版書籍の再版を検討し実施する。(プ、指、社・広)	◎			○
20	各種ハンドブックの内容改訂を行う。(関連委員会)	○			
21	スカウト歌集の編纂を検討する。(ソ)	○			
22	スカウトソング研修会・ワークショップを開催する。(ソ)	◎			
23	維持会員入会促進活動等を推進する。(事)	○			
24	ボーイスカウトカードへの入会促進を図る。(事)	○			
25	遺贈システムのPRと促進を図る。(事)	○			
26	世界スカウト財団・APR財団への支援を行う。(事)	○			
27	スカウトライオンズ/スカウトロータリアン入会促進活動等を推進する(事)	○			
28	ともに進もう(ひとり親家庭等応援)助成プログラムを促進する。(社・広、財)	◎	○	○	○
29	書き損じはがき等回収による「もったいない寄附」を促進する。(社・広、財)	◎	○	○	○
30	23WSJで構築した募金ネットワークを継承し活用する。(社・広、財)	◎			
31	行政・民間からの委託・助成事業を獲得する。(事)	○			
32	東京オリンピック・パラリンピック支援への準備に取り組む。(事)	○			
33	新しい野営場用地の確保のためプロジェクトチームを設置し検討を進める。(PT) (日本ジャンボリーなど開催可能な常設キャンプ場や指導者訓練野営場の確保を目指す)	○			
34	静岡県立富士山麓山の村施設の活用を促進する。(事)	◎	○	○	○
35	野営場整備について各県連盟等の自主的協力も促進しつつ、 全国の加盟員がプログラムとして活用することを推進する。(PT、プ)	◎	○	○	○
37	防災・危機管理に関する提言を具現化する。(防危)	◎	○		
38	「共済事業」の運用を行う。(共済委員会)	◎	○	○	◎

日－1：富士スカウトの顕彰（代表表敬）は、次のとおり実施した。

- ・富士スカウト代表による国の主要機関への表敬訪問を行い、スカウト自身の情熱の喚起と社会貢献意欲を向上させることを目的に開催した。
- ・2018（平成30）年1月1日から12月31日までに富士スカウト章を受章した27県連盟170人のスカウトを事業対象者とし、その中から県連盟に推薦された代表スカウト94人により実施した。

〈東宮御所表敬〉

日 時：2019（平成31）年3月22日（金）11:00～11:50（東宮御所日月の間）

参加者：代表スカウト27県連盟47人

〈首相官邸・文部科学省表敬〉

日 時：2019（平成31）年3月27日（水）12:35～12:50（文部科学省）

18:20～18:35（首相官邸）

参加者：代表スカウト20県連盟47人

- ・司会、決意の言葉、弼栄を行うスカウトは、自己紹介等の動画を提出資料とし選考を行った。
- ・代表スカウトは、訪問日前日に集合し1泊2日の準備訓練を実施した。
- ・参加者アンケート等により、スカウトにとってこれまでの活動を振り返り、改めて自信をもつ機会となったことがうかがえた。
- ・皇太子殿下のお言葉、柴山文部科学大臣、西村内閣官房副長官、そして富士スカウトOBである山本ボーイスカウト振興国会議員連盟理事からも激励の言葉をいただくことができた。
- ・昨年度の事業対象者は165人に対し今回170人で、富士スカウト章取得者はベンチャースカウト全体の約2.5%である。
- ・2018（平成30）年度（4月1日～3月31日）の富士スカウト章受章者は、149人となり、2017（平成29）年度受章者187人より約2割ほど減少した。

日ー2：全国ローバースカウト会議（RCJ）を通じてローバースカウト活動の活性化を図ることについては、次の活動を展開した。

- ・全国大会において、38県連盟の代表が集まり年次総会を開催した。また、テーマ別集会にて、ローバースカウト活動とRCJについての活動紹介と世界のローバーリングについてプレゼンを行った他、期間中を通じてエキスポ会場にて全国の活動紹介を行った。
- ・新たな運営組織として「活動推進委員」の設置を決議し、憲章の改訂を行った。
- ・8月に「RCJ Re：Quest」を開催した。
- ・海外派遣については長中期計画の7ー5に記載。
- ・各ブロックにおいてオンラインを中心とした会議が定期的で開催された他、対面会議を開催した。
- ・関東、近畿、中国・四国ブロックにおいてブロックイベントを開催した。

日ー3：全国スカウトフォーラムの開催については、「Ⅱ. 重点事業への取り組み、3. 各種行事の開催（2）（5頁）」のとおり。

日ー4：RCJによる全国事業については、「Ⅲ. 重点事業への取り組み、3. 各種行事の開催（1）（4頁）」のとおり。

日ー5：英国エディンバラ公国際については、一般事業（団ー9）に記載とおり、ローバースカウト年代のプログラムの一環として、英国エディンバラ公国際アワードを導入しており、日本事務局の閉鎖に伴い、すでに参加している人への対応など限定的に活動したため、研修会は実施できなかった。  
アジア太平洋地域事務局や英国エディンバラ公国際アワード財団事務局長と面談し、日本連盟が独自にアワードリーダー研修会を実施できるなどの権限が持てるOA（operation authority）の認証を受けることの提案があり、新たなライセンス契約を構築するために調整している。

日ー6：海外派遣事業については、今年度は7事業あり、オーストラリア、カナダ、韓国、シンガポール、台湾、フィリピン、香港の7つの国と地域に合計26人を派遣した。

- ① スカウト・オーストラリア短期留学派遣  
7月22日～8月26日 オーストラリア・西オーストラリア州パース市郊外 1人
- ② 第5回国際パトロールジャンボリー派遣  
7月31日～8月7日 韓国・江原道 ソラクサン 2人
- ③ CJKベンチャープロジェクト派遣（台湾開催）  
8月1日～8月8日 台湾・台南／高雄 4人
- ④ 第14回台湾ローバームート派遣  
8月17日～8月23日 台湾・台南 烏山頭 3人
- ⑤ スカウト特別海外派遣（霞会館補助事業）  
9月1日～9月22日 カナダ 1人  
3月10日～3月31日 台湾、シンガポール、香港 1人
- ⑥ 第9回アジア太平洋地域スカウトフォーラム派遣  
10月8日～10月21日 フィリピン・タガイタイ・パサイ 4人
- ⑦ 香港ローバームート派遣  
12月23日～12月27日 香港・少年警訊永久活動中心暨青少年総合訓練營 10人

また、本年度に県連盟・地区・団等による「海外派遣」として承認された計画は、9県連盟、12事業、参加者158人であった。

日ー7：海外スカウト受入事業については、次の2事業を行い、2カ国より42人を受け入れた。

- ① オーストラリア短期交換留学スカウト受入  
11月26日～1月12日 オーストラリアから2人を兵庫連盟で受入
- ② 2018（平成30）年度日韓スカウト交歓計画  
1月12日～1月20日 韓国から40人を神奈川連盟で受入

県連盟・地区・団等の計画による「海外スカウト受入計画」として承認された計画は、6県連盟、8事業、訪日参加者5カ国連盟より合計111人であった。

日－8：国際活動サービスチーム（STIA）の活動は、外国スカウト案内、海外派遣支援、翻訳協力等を中心に行っている。このチームの活動は、将来国際社会で活躍できる人材の育成と発掘に役立っている。  
2018（平成30）年度は新規に11人が登録し、前年度からの継続登録者45人と合わせて56人の登録があった。

日－9：ウッドバッジ研修所課程別研修について、BVS課程およびCS課程を見直し、少人数での実施や会場の制約を受けにくくすることを考慮した内容とした。

日－10：トレーナー制度の見直しに関する取り組みとして、トレーナー報告書について定量的に評価できるようトレーナー報告書の書式を改訂した。また、トレーナー研究会とトレーナー訓練については、次のとおり実施した。

#### トレーナー研究会

今年度は2019（平成31）年2月3日から24日まで全国11会場で開催し、今年度の日本連盟の指導者養成に関する取り組みと2019年度の予定を報告し、共通研究テーマを「成人指導者への支援」に設定し、研究のポイントを示して各地で研究を行った。  
全国のトレーナーに新指導者訓練を浸透させ、隊指導者・団指導者への支援の方法について深く考察する機会となっている。

#### リーダートレーナーコース

本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に訓練の企画及び実施をするための技能を修得することを目的として開設した。

（6月20日～6月24日 於・高萩スカウトフィールド 10県連盟14人の参加）

#### 副リーダートレーナーコース

本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に導入訓練課程及び基礎訓練課程を行う技能を修得することを目的として開設した。

（6月6日～6月10日 於・那須野営場 20県連盟27人の参加となった）

#### 新任副リーダートレーナー研修会

副リーダートレーナーコースを修了し、トレーナー就任を承諾された者を対象に、委嘱状と3ビーズの授与の他、各種手続き、トレーナーとしての心構えについて研修を行った。

3月9日（土）東会場：スカウト会館（東京）、3月10日（日）西会場：大阪スカウト会館

トレーナーの任務や、必要な資料の活用方法、関連する教育規程について研修を行い、トレーナーとして奉仕する決意を新たにす有意義な研修となっている

日－11：2018（平成30）年度全国大会については、次のとおり実施した。

- ・5月26日から27日まで岐阜県「長良川国際会議場」他で969人（来賓他含む）の参加者を得て開催した。1日目は日本連盟からの各種報告等・年次表彰・全国県連代表者会議・県連盟コミッショナー会議・RCJ総会・交歓会を、2日目は、全国スカウト教育会議（テーマ集会）を行った。また、2日間にわたって行ったスカウティングエキスポでは、加盟員有志、諸団体、地元物産他多くのコーナーを設置することができた。
- ・全国スカウト教育会議（テーマ集会）は、10のテーマを設定した。①スカウト増加のための団・隊の取り組み～団、隊での成功例から～（参加者107人）、②「ボーイ隊のプログラム立案」と「BS・VS部門の見直し」（参加者63人）、③国際活動サービスチーム集会と海外派遣報告会（参加者27人）、④10万人のチカラを合わせスカウトの魅力を発信しよう（広報戦略）（参加者18人）、⑤ローバースカウト活動とRCJについて（参加者80人）、⑥教育研究プロジェクト「スカウティングを科学する」（参加者33人）、⑦指導者に必要なスキルとは～ウッドクラフトを通じて～（参加者33人）、⑧そなえよつねに～防災・減災の視点～（参加者26人）、⑨セーフ・フロム・ハーム（思いやりの心を育む教育）について（参加者18人）、⑩スカウト活動とアレルギー（参加者33人）【参加者合計438人】。昨年度に引き続き、諸会議（全国県連代表者会議・県連盟コミッショナー会議・RCJ総会）を1日目に実施したことにより、全国スカウト教育会議（テーマ集会）に多くの参加を得ることができた。
- ・スカウティングエキスポには、37ブースの出展があり、加盟員以外からも多くの来場者があった。
- ・岐阜県連盟では、5月27日に県内加盟団を対象とした「ぎふわくわくポイントラリー」を、スカウティングエキスポをゴールとする設定で開催し、約800人の参加を得た。
- ・12月以降、2019年度全国大会（鹿児島県鹿児島市）の準備を開始した。

日－12：組織拡充モデル県連盟については、2017（平成28）年度から高知県連盟を、2018（平成29）年度からは秋田県連盟を、平成30年度からは岡山連盟・大分県連盟を加え、組織拡充を推進している。

- ・秋田は、9月2日と12月22日に訪問し、現況のヒアリング、意見徴収、サポートの方向性について協議し、県連盟からの要望に対する回答と提言（8項目）を提示した。
- ・岡山は、8月25日と1月13日に訪問し、現況のヒアリング、意見徴収、サポートの方向性について協議し、県連盟への提言（10項目）を提示した。また、次年度に防災キャラバン2019キックオフイベントがイオンモール倉敷で開催されることから、社会連携・広報委員会とともに開催に向けて支援を行った。
- ・高知は、8月14日に青木理事長がスカウト会館来訪、10月21日、1月18日、2月17日から18日、3月13日から14日に訪問し、具体的支援として実施する3月23日のボーイスカウト講習会および一般の保護者を対象としたボーイスカウト説明会、翌24日の一般の小学生を対象とした野外活動体験イベントの準備を進めた。ボーイスカウト講習会には12人（内、非加盟員6人）、ボー

イスカウト説明会には17家庭20人、体験イベントには71人の一般の小学生・幼稚園児の参加を得て開催した。

- ・大分は、9月8日と1月13日に訪問し、村田委員長の講演、現況のヒアリング、意見徴収、サポートの方向性について協議を行った。具体的な支援等については、次年度の対応となる。

日-13：組織拡充担当者による会合は、次のとおり実施した。

- ・11月10日、11日の2日間通い型で、東京・ボーイスカウト会館にて「加盟員を増やすために都道府県連盟ができること、すべきこと」をテーマに、全国組織拡充担当委員長会合を開催した。
- ・参加者27県連盟29人、スタッフ11人（団支援・組織拡充委員会委員7人、事務局4人）の他に、社会連携・広報委員会、中途退団抑止特別委員会から10人の参加を得た。
- ・内容：①団支援・組織拡充委員会、中途退団抑止特別委員会、社会連携・広報委員会の取り組み、②各県連盟の取り組み、5県連盟の発表と相互質疑、③研究「今後の県連盟等の施策（グループ討議と・発表と共通理解を含む）」
- ・前年度（31県連盟34人）より参加者は若干少なくなったが、毎年度恒例の会合として定期的に開催していることから、全県連盟からの参加への啓発を続けたい。また、委員長会合は県連盟を、全国大会でのテーマ集会は団・隊と、対象のすみ分けして開催していく。

日-14：組織拡充顕彰については、次のとおり実施した。

- ・2018（平成30）年度全国大会表彰式において、2017（平成29）年度の顕彰を実施した。  
【県連盟対象】①スカウト加盟員数の増加＝2県連盟、②BVS隊設置＝7県連盟、  
③スカウト継続登録者率＝2県連盟、④団数の増加＝2県連盟  
【団対象】Sランク＝10県連盟15こ団、Aランク＝25県連盟87こ団
- ・2018（平成30）年度については、一部顕彰内容を変更した。11月30日付で全県連盟宛に文書発信し、「2019年度全国大会」表彰式において顕彰する。

日-15：中途退団数の実人数を把握することについては、毎月末に登録状況を集計し、都道府県連盟に配信、諸会議に配布することで連盟全体での把握を進めた。

また、登録システムより「退団理由」を抽出し、分析を進めている。

日-16：全国BS写真コンテスト

例年同様11月～2月末まで募集し、少年の部200点、青年・成人の部201点、計401点の応募があった。（昨年は少年の部238点、青年・成人の部145点、計383点だったので応募総数は伸びた）それぞれの部門で最優秀1点、優秀2点、入選7点を、日本写真家協会元会長の田沼武能審査員長に選考いただき表彰した。また各部門の最優秀者にはキャノンより提供いただいた賞品（デジタルカメラ）を贈呈した。また2017（平成29）年度より新たに設けたPRムービーコンテストを今年度も実施した。応募401作品から最優秀、優秀の2作品を選考し、パナソニックより提供いただいた賞品（ウェアラブルカメラ）を贈呈した。

日-17：現在取り扱い中の書籍の販売状況について整理し、今後の増刷や価格設定の基礎情報としてまとめた。また、記入・記録用紙等の資料についてはWebでのデータ配信に切り替えることで内容を整理している。（他は、IV. 広報戦略で今年度取り組んだ施策を参照）

日-18：WOSM・外国連盟資料の翻訳・出版については、Code of Conduct（行動規範）とAdults in Scouting World Policy（スカウト運動における成人に関する世界方針）の翻訳を行った。

日-19：絶版書籍の再販について検討はしたが、良い企画に至らなかった。引き続き再販価値のある書籍の検討を続けるとともに、古い機関誌連載記事を集めた新刊書の企画を検討している。

日-20：各種ハンドブックの内容改訂については、指導者養成委員会、プログラム委員会との連携により進めた。

日-21：スカウト歌集の編纂については、スカウトソング特別委員会にて過年度からの修正内容を確認の上、ボーイスカウト歌集を増刷した。

日-22：スカウトソング研修会については、県連盟の開催希望を募り熊本県で開催した。また、昨年から開催しているスカウトソング研修会の企画・運営をテーマとしたスカウトソングワークショップを引き続き開催した。次年度については、各地で開催されるスカウトソング研修会へ委員を積極的に派遣するとともに、ワークショップ修了者の活用を促していくこととした。

- ・2018（平成30）年度スカウトソング研修会  
期 間：平成30年11月10日（土）～11日（日）  
場 所：熊本県 国立阿蘇青少年交流の家  
参加者：6県連盟21人
- ・2018（平成30）年度スカウトソングワークショップ  
期 間：平成31年1月12日（土）～13日（日）  
場 所：東京 築地本願寺  
参加者：12県連盟22人

日-23：2018（平成30）年度の維持会費実績は次のとおりであった。

<b>維持会員</b>	<b>総計</b>	<b>3,885</b>	個人・法人
(内訳)	通常維持会員	3,643	個人・法人
	特別維持会員	75	個人
	法人維持会員	106	法人
	旧特別維持会員	61	個人・法人
<b>維持会費入金額</b>			
	当該年度実績額	59,176,000	円（予算額の102.9%）（対前年78.7%）
	当該年度予算額	57,500,000	円
	前年度実績額	75,188,300	円
<b>当該年度実績額内訳</b>			
	県連盟取扱額	47,449,000	円（予算額の128.2%）（対前年81.2%）
	県連盟協力依頼額	37,000,000	円
	前年度実績額	58,467,000	円
	日本連盟取扱額	11,727,000	円（予算額の57.2%）（対前年70.1%）
	日本連盟予算額	20,500,000	円
	前年度実績額	16,721,300	円

- ・2018（平成30）年度の維持会費実績は、各県連盟の多大なる協力を得て、無事目標額の57,500,000円を達成することができた。（3月末日現在：対前年比では△16,012千円。なお、昨年度は大口の納入があった）
- ・目標達成県連盟は39県連盟であった。
- ・維持会員年功章の制定につき、実際の発給を開始した。新たな表彰の設定により、より多くの加入者を促進するとともに、同制度に外部の法人等への表彰も組み込み、あわせて入会促進を図ることとした。
- ・マンスリーサポート維持会員の推進については、年間1万円からの維持会費に、月額1,000円（年額計12,000円）からのカード自動引き落としによるマンスリーサポート維持会員の制度の拡大に努めた。特に、日本連盟役員（理事・監事10万円→12万円、評議員5万円→6万円と規定の維持会費を改訂することについて理事会承認を得て、それぞれ月額自動引き落としへの切り替えを呼びかけた。また、LT/ALTにも協力を呼びかけることを教育推進会議で取り決め、依頼を発信した。11月以前から3月上旬現在、新たなマンスリーの申し込み状況は以下のように増えている。（理事・監事：4人→16人 評議員：0人→9人 LT/ALT：1人→27人 その他9人 計57人）

日-24：ボーイスカウトカードの入会促進について

- ・2011（平成23年）度よりウェブによる申込システムを導入し入会促進を図っている。
- ・ボーイスカウトカード会員数（2月末現在）  
総計1471人（内訳）正会員数1345人、家族会員数126人
- ・ウェブによる申込システムを導入し加入者数は一旦下げ止まりを見せたが、漸減している。対前年同時期では80人減少となった。
- ・機関誌や維持会員だよりに入会のお知らせを掲載する一方、現在のカードよりもメリットのある新たな媒体の研究を課題としているが、進展できていない。

日-25：遺贈システムについては維持会員だより等でお知らせを掲載してきた。また一般の雑誌（文藝春秋）での遺贈関連特集記事への広告出稿を行い、120人から資料請求をいただいた。今後は、スカウトクラブ員へのお知らせ等組織を通じたPRなどにも力を入れていく。

日-26：例年同様、それぞれの財団会員等のネットワークからのPRを展開いただき、その事務支援等を行ってきた。2018（平成30）年度世界スカウト財団には2人、APRスカウト財団には3人の新規加入者を得た。これにより世界スカウト財団B-Pフェローは245人、APRスカウト財団会員は183人となった。なお世界スカウト財団年次総会が2019年4月にソウルで開催される予定であり、世界スカウト財団の荒尾理事（B-Pフェロー日本チャプター会長）ほか十数名が同所で開催されるB-Pフェロー会合に参加する予定である。

日-27：例年同様、それぞれの会員等のネットワークからのPRを展開いただき、その事務支援等を行ってきた。2018年（平成30）年度スカウトロータリアンには4人、スカウトライオンズには5人の新規加入者を得た。これによりスカウトロータリアンは56人、スカウトライオンズは56人となった。5月の岐阜での全国大会時にそれぞれの年次総会を開催した。

日-28：ともに進もう助成プログラムは、2018（平成30）年度に15県連盟、57家庭、70人（うち新規41人）の助成を行った。助成申請者は年々増えており、助成の原資となる寄付は伸び悩んでいること、および元々の助成プログラム立ち上げ時に対象規模などの想定をしていなかったことなど課題が見えてきた。ニーズのある取り組みだけに前向きに継続したいが、2019年度には助成のあり方を基本から再検



討する必要がある。

日-29：前項の原資を集める「もったいない寄付」は、2018（平成30）年度に約57万円を集めたが不十分であるため2019（平成31）年度にさらに呼びかけを強化するとともに前項同様制度自体の基本的な見直しを必要とする。

日-30：2018（平成30）年度に募金に関する新たなチーム編成を行い、募金依頼を展開する計画だったが編成が遅れている。一部18NSJへの協賛など企業訪問、連携に着手しているが、具体的なチーム編成が急がれる。

日-31：2018（平成30）年度は次の補助金・助成金を得た。

・セブンイレブン記念財団「スカウトの日」協賛金 5,500,000円

・茨城県「青少年の地域間交流体験事業」委託金 5,000,000円

大和の森 高萩スカウトフィールド」を活用し、県内外の青少年等の交流の機会を設けるとともに、青少年教育施設職員、教員及び子ども会役員等を対象とした自然体験活動の指導者養成を行うことで、施設の活用促進並びに青少年の体験活動の充実を図るため、下記の8事業を実施した。

① 7月14日（土）～16日（月） NEALリーダー養成講座

② 8月18日（土）～19日（日） 親子キャンプ

③ 8月25日（土） 茨城DAY

④ 9月22日（土）～24日（月） NEALインストラクター養成講座

⑤ 10月20日（土）～21日（日） 第1回小学生キャンプ

⑥ 10月27日（土）～28日（日） 第2回小学生キャンプ

⑦ 11月 3日（土）～ 4日（日） 第3回小学生キャンプ

⑧ 11月10日（土） 演習Ⅱ（救急法）

<成果と評価>

① NEALリーダー養成講座

参加者6人、2泊3日のカリキュラムを履修し、全員が試験に合格した。

② 親子キャンプ

茨城県内14家族40人が参加し、大変満足され、高評価な体験活動が提供することができた。

③ 茨城DAY

茨城県内の小学生及び保護者62人が参加し、高評価な体験活動が提供することができた。

数社のメディアの取材があり、茨城新聞に掲載された。（8月30日付）

④ NEALインストラクター養成講座

参加者5人、2泊3日のカリキュラムを履修し、全員が試験に合格した。

⑤～⑦ 小学生キャンプ

第1回 小学生4年生～6年生19人が参加

第2回 小学生4年生～6年生23人が参加

第3回 小学生4年生～6年生35人が参加

NEALインストラクター取得のため、4人のNEALリーダーがそれぞれ2回スタッフ参加した。

⑧ 演習Ⅱ（救急法）

4人のNEALリーダーが参加し、NEALインストラクター取得に必要なカリキュラムを全て修了し、全員がNEALインストラクターを申請した。

・事業全般を通して、高萩スカウトフィールドを周知することができ、また、参加者の満足度は高く、高評価な自然体験活動を提供することができた。

日-32：東京オリンピック、パラリンピックについては、一般ボランティアの一員としての大会ボランティアへのボーイスカウト関係者の応募の要請があり、日本連盟を経由したボランティア登録が行われ、101人がボーイスカウト関係者としての大会ボランティア登録番号を得た。引き続きボーイスカウトの制服を着用しての奉仕が可能となるよう組織委員会等との交渉を進める。

日-33：新しい野営場用地の確保のためプロジェクトチームを設置することについては、長中期計画の行動計画より取り組んだ施策（12-8）に記載のとおり、現在難しい状況にある。

日-34：静岡県立富士山麓山の村施設の活用については、施設が廃止決定となったことにより検討を終了した。

日-35：高萩スカウトフィールドの「スカウト王国計画」を理事長が掲げ、この一端である植樹事業を地元茨城県連盟の奉仕者を中心として取り組んだ。この事業は地球環境基金の助成事業「しぜんとあそぼデイキャンプ」とも連携し、地元高萩市の小学生も交えて実施した。

日-37：技能章「防災章」が新設されることに伴い、細目への取り組みへの支援ツールの提供について検討している。

日-38：「共済事業」の運用については、共済事業報告書が別途発行されるが、概要は次のとおりである。

・2014（平成26）年4月より「PTA・青少年教育団体共済法」を根拠法とする認可共済『そなえよ

- つねに共済』を開始し5年目を迎えた。ボーイスカウト活動中の事故を補償する。共済掛金は800円であるが、9月以降の加入は600円に減額している。
- ・2019（平成31）年3月末現在、104,412人（内、非加盟員を6,117人を含む）の申込を受付して運用した。例年同様、加入総人数の93%が4月に加入している。前年度と比較すると、加盟員の減少傾向と相俟って、5,388人（約4.9%）の減員となった。
  - ・非加盟員の加入者数は毎年増加傾向にある一方、加盟員を含めた全体の加入者数はここ数年間続く対前年度比5%前後の減少傾向に歯止めがかかっていない。
  - ・事故状況については、前年度以前に発生した事故も含めて今年度内に333件の「事故発生状況受付簿」を受付した。今年度に発生した事故に限れば302件で、前年度と比較した同時期の件数比では約7.9%減となった。
  - ・2018（平成30）年度内に発生した事故は今後も一定数「事故発生状況受付簿」を受付することが見込まれ、最終的には400件位になる見込みである。
  - ・共済金の給付は「安全普及啓発活動」に対して次のとおり円滑に行われている。
    - ①「安全促進フォーラム」の開催については、一般事業「県-9」（P.23）参照。
    - ②安全分野に係わる各種資料制作：スカウティング誌掲載記事抜粋の「セーフ・フロム・ハーム」・安全委員会作成『野外活動のための安心・安全講座』を取りまとめし、HPへ掲載。指導者への情報提供を通じて、活動中の事故低減を図った。
    - ③2015（平成27）年度に、ボーイスカウトの各都道府県連盟事務局及び那須野営場、高萩スカウトフィールド（山中野営場より移設）、日本連盟にAEDを各1台配備した経費は、5年間に亘り安全普及啓発活動費より支出（4年目）している。
    - ④ビーバースカウト・カブスカウトを対象とした、スカウトが自ら思いやりの心について考えることができる啓発資料の作成に取り組んだ。



## Ⅷ. 各種会議の開催

### 2018（平成30）年度 評議員会・理事会の開催

#### 第1回理事会：5月8日（火）ボーイスカウト会館で開催

1. 2017（平成29）年度の事業報告について
2. 2017（平成29）年度の決算について
3. 2018（平成30）年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について
4. 第17回日本スカウトジャンボリー実行予算について
5. 2020年度全国大会開催地について
6. 第18回日本スカウトジャンボリー開催地について
7. 共済事業の約款及び算出方法書の一部改正について
8. 財政再建及び組織改革に関する基本方針への取り組みについて
9. 監事・名誉役員・先達について
10. 改正加盟登録料9月以降の減額等について

#### 定時評議員会：5月25日（金）長良川国際会議場で開催

1. 平成29年度の決算及び平成29年度共済事業決算について
2. 共済事業に関する定款の一部改正について
3. 評議員・理事・監事・名誉役員について
4. 改正加盟登録料9月以降の減額等について

#### 第1回臨時理事会：5月25日（日）長良川国際会議場で開催

1. 代表者理事及び副理事長、専務理事、常務理事、日本連盟コミッショナー、国際コミッショナー、業務執行理事の選任について
2. 名誉会議議長の選任について
3. 日本連盟副コミッショナーおよび国際副コミッショナーの選任について
4. 名誉会議議員の交代について
5. 100周年記念事業特別委員会および関連小委員会の設置について
6. 第26回アジア太平洋地域スカウト会議日本代表団の編成について

#### 第1回臨時評議員会：5月25日（日）長良川国際会議場で開催

1. 評議員長及び副評議員長の選任について

#### 第2回臨時理事会：7月23日（月）ボーイスカウト会館で開催

1. 第18回日本スカウトジャンボリー開催地について
2. 2020年度全国大会開催地について
3. 「教育推進会議の構成」に関する教育規程の一部改正について

#### 理事会（書面審議）：9月20日（木）

1. 定款第2条（事務所）の変更

#### 評議員会（書面審議）：9月27日（木）

1. 定款第2条（事務所）の変更
2. 定款第5条（その他の事業）の変更

#### 第2回理事会：10月9日（火）日本連盟スカウト会館で開催

1. ボーイスカウトエンタープライズ経営改革特別委員会の提案について
2. 特別委員会および実行委員会等の設置について
3. 第26回APRスカウト会議日本代表団の議題への対応について
4. 平成31年度国の委託事業・公益団体等補助事業について
5. 平成31年度事業計画策定日程について
6. 2019年度スカウト初年度登録促進キャンペーンについて
7. 評議員・理事・監事の維持会費納入方法について
8. 県連盟コミッショナーの一部交代について
9. 任期満了に伴う県連盟コミッショナーの委嘱について
10. 名誉会議議員の一部交代について

### 第3回臨時理事会：1月15日（火）日本連盟スカウト会館で開催

1. ボーイスカウトエンタープライズへの対応について
2. 第17回日本スカウトジャンボリー（17NSJ）の決算について
3. 平成30年度臨時評議員会の議案について
4. 日本連盟副コミッショナーの選任について
5. 評議員の交代（関東ブロック）について
6. 100周年記念事業関係小委員会の編成について
7. 東日本大震災に伴う登録料の支援（岩手・福島）を行うことについて
8. 会員に関する規程の一部改正（理事・監事、評議員の維持会費）することについて

### 評議員会（書面審議）：2月26日（火）

1. 関東ブロック選出評議員の辞任に伴う後任の選任について

### 第3回理事会：3月12日（火）日本連盟スカウト会館で開催

1. 2019年度事業計画について
2. 2019年度予算について
3. 加盟登録料の減免について
4. 後楽園SAJビルの賃貸化について
5. 2019年5月開催の定時議員会の議案について
6. 名誉役員の追加委嘱について

### 第2回臨時評議員会：3月12日（火）日本連盟スカウト会館で開催

1. 後楽園SAJビルの賃貸化について
2. 名誉役員の追加委嘱について

### 運営会議の開催

構 成 員：奥島理事長、日枝副理事長、松平副理事長、水野副理事長、佐野常務理事、  
膳師常務理事、山内常務理事、福島理事（日本連盟コミッショナー）

開 催 日：第1回 4月 3日（火）  
第2回 5月 8日（火）  
第3回 6月 5日（火）  
第4回 7月 3日（火）  
第5回 9月 4日（火）  
第6回 10月 2日（火）  
第7回 11月 6日（火）  
第8回 12月 4日（火）  
第9回 1月 8日（火）  
第10回 2月 5日（火）  
第11回 3月 5日（火）

場 所：9月までは本郷のボーイスカウト会館  
10月からは下井草の日本連盟スカウト会館

### 県連盟代表者会議の開催

#### 〔第1回〕

日 時：5月26日（土）15：30～17：30

場 所：岐阜・長良川国際会議場

出 席 者：46都道府県連盟理事長または代理者、日本連盟 奥島理事長、他6人

内 容：1. 財政再建及び組織改革に関する基本方針への取り組みについて  
2. 加盟登録料の改定について  
3. 平成29年度事業報告・決算について  
4. 平成30年度事業計画・予算について  
5. 第17回日本スカウトジャンボリーについて  
6. 平成30年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について  
7. 第18回日本スカウトジャンボリー（2022年）会場について  
8. 2020年度全国大会開催地について  
9. 団診断について

## 〔第2回〕

- 日時：1月26日（土）13：00～16：00  
場所：日本連盟スカウト会館  
出席者：44都道府県連盟理事長または代理者  
日本連盟 奥島理事長、他理事9人  
内容：1. 2019年度事業計画（案）および予算（案）について  
2. 2019年度全国大会および県連盟代表者会議について  
3. 第24回世界スカウトジャンボリー日本派遣団の準備状況について  
4. 財政再建及び組織改革に関する基本方針の推進状況について  
5. 2019年度スカウト初年度登録促進キャンペーンについて  
6. ボーイスカウトエンタープライズからの報告について  
7. 県連盟に関する教育規程改正の施行について  
8. 登録時のセーフ・フロム・ハームについて  
9. 社会連携・広報の主な取り組みについて  
10. 都道府県連盟へのeメール・ドライブ等サービス提供予定について

## 全国県連盟コミッショナー会議の開催

### 〔第1回〕

- 日時：5月26日（土）15：30～17：30  
場所：岐阜・長良川国際会議場  
出席者：県連盟コミッショナー46人（代理4人含む）  
福嶋日本連盟コミッショナー 他日本連盟役員9人  
主な内容：1. 平成30年度日本連盟事業計画  
2. 平成30年度日本連盟コミッショナー方針  
3. 財政再建及び組織改革に関する基本方針への取り組み  
4. 加盟登録料改定  
5. 日本連盟各常設委員会の取り組み

### 〔第2回〕

- 日時：11月3日（土）13：00～4日（日）11：30  
場所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター  
出席者：県連盟コミッショナー46人（代理2人を含む）  
福嶋日本連盟コミッショナー 他日本連盟役員9人  
講演：杉原顧問・先達  
主な議題：1. 日本連盟コミッショナー方針の推進  
2. 各常設委員会報告（プログラム、指導者養成、国際、SfH・安全）  
3. 表彰について  
4. 講演（杉原顧問・先達）  
5. グループ討議

### 〔第3回〕

- 日時：平成31年1月19日（土）～20日（日）  
場所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター  
出席者：県連盟コミッショナー46人（代理4人を含む）  
福嶋日本連盟コミッショナー他日本連盟役員11人  
主な内容：1. 新任県連盟コミッショナーのつどい  
2. 日本連盟コミッショナー方針の推進  
3. 各常設委員会報告

## 全国事務局長会議の開催

- 日時：11月17日（土）13：00～18日（日）11：00  
場所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター  
出席者：41都道府県連盟事務局長および代理者  
日本連盟 佐野常務理事、膳師常務理事、福嶋日本連盟コミッショナー、木村事務局長他  
内容：1. 日本連盟報告（事務局組織、スカウト会館とショップの移転、事前調査集計、他）  
2. 財政再建及び組織改革に関する基本方針の取り組み状況について  
3. 組織拡充と中途退団抑止について  
4. 100周年記念事業に向けた取り組みについて

5. 表彰・顕彰、回答録と共済関係、県連盟代表者会議と賀詞交換会について
6. 青少年プログラムと指導者養成について
7. PR活動計画、防災キャラバン、維持会員年功章について
8. ボーイスカウトエンタープライズについて
9. 日本連盟コミッショナーの取り組みについて
10. 日本連盟への要望・質問について

## IX. 参考（規程等改正一覧）

1. 英国エディンバラ公国際アワード アワードリーダーバッジの着用に関する教育規程の改正  
承認：平成30年 2月18日 スカウト教育推進会議  
施行：平成30年 4月 1日
2. 新たな選択課目（チャレンジ章）の設置に関する教育規程の改正  
承認：平成30年 6月10日 スカウト教育推進会議  
施行：平成30年 6月10日
3. スカウト教育推進会議に関する教育規程の改正  
承認：平成30年 7月23日 理事会  
施行：平成30年 7月23日
4. 指導者訓練に関する教育規程の改正  
承認：平成30年 9月 2日 スカウト教育推進会議  
施行：平成31年 4月 1日
5. 技能章の細目および記章に関する教育規程の改正  
承認：平成30年11月25日 スカウト教育推進会議  
施行：平成31年 4月 1日
6. 教育の方法（技能章）の改定に関する教育規程の改正  
承認：平成31年 2月17日 スカウト教育推進会議  
施行：平成31年 2月17日
7. 隊指導者上級訓練課程の改定に関する教育規程の改正  
承認：平成31年 2月17日 スカウト教育推進会議  
施行：平成31年 4月 1日
8. 技能章の細目に関する教育規程の改正  
承認：平成31年 2月17日 スカウト教育推進会議  
施行：平成31年 4月 1日

## X. ボーイスカウト（BS）エンタープライズ事業報告

BSエンタープライズの事業年度となる2018（平成30）年2月1日から2019年1月31日までの販売実績は496,338千円（正価税込み）で、前年比で8.2%増となった。（前年度は正価税込みで458,703千円）最終的に税引き後の純利益は、12,214,246円となった。

BSエンタープライズ事務局は、10月に日本連盟事務局に一体化され、スカウト用品部として経営体制が一新し、日本連盟への業務委託を開始した。更には11月にスカウトショップを本郷から荻窪へ移転し、大きな変革の一年となった。詳細は次のとおりである。

### 1. スカウトカタログ2018～2019版の作成・配付（3月下旬～5月下旬）

今年度は、6万7千部発行したが約1万部の残が生じた。2017年版は7万2千部、2016年版は7万7千部発行した。

2019年版は無駄を省くとともにインターネットの利用を促進し、消費税率変更後の10月の発行を予定する。発行部数は3万部（内訳約2千団に各10部で約2万部、各県連盟・販売協力店・ショップ使用で約1万部）を検討している。その他、必要な場合はネットによる閲覧、ダウンロードを依頼することで対応を予定する。内容は、商品の選択と集約を進め、テーマと必要性をアピールしたものにする。

### 2. 全国大会での販売（5月26日～27日、岐阜・長良川国際会議場）

全国大会のスカウトショップにて17NSJ商品を含むグッズの販売を行った。

持込商品数2,137点（総額1,690千円）に対し、販売数900点（販売総金額580千円）であった。（ここ数年の売上約800千円に比べ売上減）

ショップの場所がわかりにくかったという点もあったが、会場でしか買うことが出来ない商品が無かったことが販売減の要因となった。2019年の全国大会に向けては、定番商品のみでの販売では集客は望めないため、大会ロゴを使用し小ロットで生産ができる商品が必要である。（木製のチーフリング、トートバッグなどなら対応が可能）また、開催期間限定のアウトレットコーナーを設け、参加者が大会場で商品を買う動機付けを与えたい。

### 3. 第17回日本スカウトジャンボリーでの販売（8月4日～8月10日 石川珠洲市）

17NSJ売店部における販売実績は次のとおりであった。

#### ① 数量

持込商品数：	70,189点	販売数	：57,347点
（内訳）		（内訳）	
大会記念品：	47,378点	大会記念品：	47,194点
一般商品	：22,163点	一般商品	：9,574点
灯火燃料	：648点	灯火用燃料：	579点

#### ② 金額

持込商品総金額：	37,591千円	販売総金額：	26,304千円
（内訳）		（内訳）	
大会記念品：	19,884千円	大会記念品：	19,750千円
一般商品	：17,160千円	一般商品	：6,048千円
灯火燃料	：547千円	灯火用燃料：	506千円

③ 粗利：販売総金額26,304千円に対する粗利金額は10,060千円

④ 経費：1,187千円（通信運搬費：604千円、旅費交通費：166千円、  
施設費：242千円、雑費77千円、消耗費72千円 他26千円）

大会記念品は、ほぼ完売した。また、大会期間中に商品が不足し販売調整を行った。  
次回大会では、商品の作りこみが課題となるが、対応としてはネット化が更に進むことを踏まえ、ネットでの事前予約販売の促進をはかる。そのためにSNSも活用していく。

#### 4. 日本連盟事務局への一体化と業務委託（10月1日）

10月1日に日本連盟事務局が東京都杉並区に移転したことに伴い、同日付でBSエンタープライズ事務局は日本連盟事務局に一体化し、日本連盟はBSエンタープライズからの業務委託を受けた。

このことにより、BSエンタープライズ職員は全員が日本連盟事務局に移籍した。

#### 5. スカウトショップの移転（本郷から荻窪へ）

##### ① 新ショップ候補地探し（2月～8月まで随時）

広さ35坪から50坪、家賃月額43万を上限とし、大規模な内装工事が不要な物件を探した。山手線内の中にある本郷界限、そして、新スカウト会館に近い荻窪界限にて調査を行い、荻窪界限1件、本郷界限6件の視察を行った。

8月下旬に不動産会社より移転先のビルの紹介を受け、現地確認の結果、広さは25坪と希望より狭いものの、荻窪駅から徒歩5～6分、家賃の条件から現在の協立第51ビル3階に決定し、契約書の内容を確認後、11月1日に正式に契約を締結した。

##### ② 新ショップの開店準備及び移転、営業開始

本郷からの移転は、11月1日と2日に実施し、開店準備を行い11月4日に新ショップをオープンした。

(1) 新ショップの人員配置は営業（各県連盟、販売協力店からの受注、出荷手配、伝票発行担当、来店客対応も兼務）が2人、仕入れ（仕入れ業者に商品を発注、在庫手配担当、来店客対応も兼務）が1人、来店客対応専任のパート職員が1人の合計4人を配置した。その他、管理・経理部門は下井草の事務局で業務を行っている。

(2) レイアウトは、面積が本郷ショップの半分以下の広さとなるため、事務スペースを極力狭くし、売り場面積を確保した。商品陳列については、本郷ショップでは売れ行きに関係無く陳列していたが、新ショップでは需要の高い商品をメインの場所に置くようにした。また書籍については本郷では3台のエレクターを利用していたが、新ショップでは本棚の活用により、コンパクトな陳列をするようにした。一方で商品の試着については、本郷ショップ同様に試着室を2基置き、試着ができるというこれまでのショップのメリットを損なわないようにした。

#### 6. スカウトショップ東京（新ショップ）の現状

新ショップ開店後の2018年11月から2019年1月末日までの実績は下記の通りである。

来場者数	:	1,537人	(前年同月比 60.2%)
売上	:	6,938千円	(前年同月比 52.6%)
BSE全体売上	:	42,518千円	(前年同月比 75.7%)

BSエンタープライズ全体の昨対比売上と比べてもショップの売上減が顕著である。これは、移転先が知れ渡っていないことと、千葉県、茨城県、埼玉県の東部（東武鉄道沿線など）からの来店が少なくなったことが考えられる。

今後の対応としては、①繁忙期後のタイミングでポイントカードを作り、新ショップでの顧客のリピート率を高めることを検討する、②移転により来店が困難になった地域の方々を新ショップに呼び戻すのは、交通の利便性を考えると極めて困難であるが、催し物（バーゲンなど）等により来店をしてもらおう機会を作る、③ショップの大きなメリットは、商品を直に触れて、衣料品であれば試着が可能な点であるが、試着可能を知らない方が見受けられることから、ホームページでアピールする等の対応を進める。

## 7. 定款の改正と評議員・理事・監事の選任

一般財団法人ボーイスカウトエンタープライズの理事会および評議員会で主たる事務所所在地の変更等の定款の改正を承認した。また、新年度となる2月1日からの新任期の評議員・理事・監事の選任を行い、全員が日本連盟の職をもって就任し、登記を行った。

## 8. 在庫の確認及び旧制服・記章類の処分

正確な在庫確認のため、次のとおり徹底した棚卸作業を実施した。

那須野営場 : 1月22日に棚卸実施

秋田倉庫 : 1月23日に棚卸実施

群馬物流倉庫 : 1月31日に棚卸実施

これらの確認の後に、旧制服・記章類の47,702千円相当を秋田の業者に依頼し、1月24日から25日に処分を行った。これらを通じて得た在庫情報を精査し、新年度からのより正確な在庫管理につなげた。

## 9. 基幹システムの変更

現在使用しているオフコン(AS400)は、現状のネット化に対し旧式であり、また同システムを維持するためのコストや人材は経費負担が大きい。2019年に開始を予定しているネット販売を見据え、汎用性の高いコストを抑えた新たなシステムの導入準備を進めた。

今後の予定は5月の連休期間でデータ移行を完了し、委託先の物流倉庫との打ち合わせ、試運転を行った後、6月からの本格稼働の準備を進めている。

以 上

